彩都山口

山口がもっと好きになる情報誌

Sight Yamaguchi Vol. 15 2023

巻頭特集

全線開通100周年！

JR山口線とSLやまぐち号の軌跡

JR山口線全線開通100周年記念特集

100周年おめでとう、山口線!

JR山口線とSLやまぐち号の軌跡

2023年4月、JR山口線が小郡駅（現・新山口駅）から益田駅までの
全線を開通して100周年を迎えました。
今や山口市民の暮らしの足としてだけでなく、
観光にも欠かせない交通手段として
多くのひとたちに愛される山口線の、
敷設されるまでの道のりや、
全線開通から100年の歩みを振り返ります。

彩都山口
Vol.15 2023

CONTENTS

JR山口線全線開通100周年記念特集
JR山口線とSLやまぐち号の軌跡
■【マンガ】山口鉄道ものがたり ―― 2
■JR Yamaguchi Line History ❶ ―― 4
幻の鉄道を経て、JR山口線が誕生。
■JR Yamaguchi Line History ❷ ―― 6
交通・輸送手段から、観光も支える存在に。
■JR山口線大解剖! ―― 8
■山口線沿線のおすすめスポット ―― 10
■山口線ゆかりのいろいろ。 ―― 12

特集2
山口市はアートなしにしてならず!?
アートのまち、山口市。
■【マンガ】山口市に息づくアート ―― 13
■山口市のアート Part 1 ―― 16
歴史的建造物から現代アートまで。
■山口市のアート Part 2 ―― 18
山口市のアート拠点「YCAM」。
■山口市のアート Part 3 ―― 20
めぐってみよう! 山口市アートmap

特集3
湯田温泉の「実は○○」なお話。 ―― 22

YAMAGUCHI CITY TIMES ―― 24
■2024年2月、中原中也記念館が
開館30周年を迎えます。
■山口の幕末が学べる十朋亭維新館が
2023年9月に開館5周年!
■常栄寺所有の絵画が
国の重要文化財に指定へ

レノファ山口 ホームゲーム情報
ふるさと納税のご案内
プレゼントクイズ

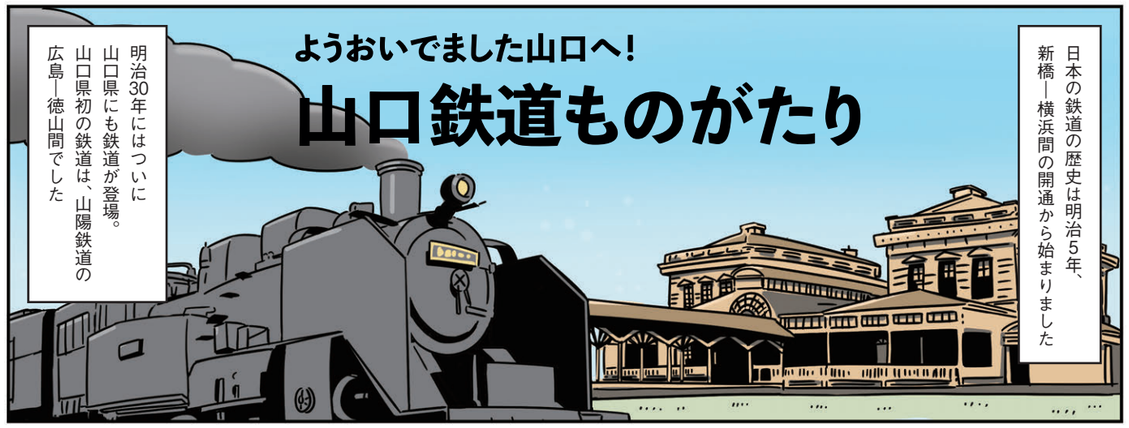
「彩都山口」のWeb版はコチラから。
https://sight-yamaguchi.jp/
彩都山口

ようおいでました山口へ！

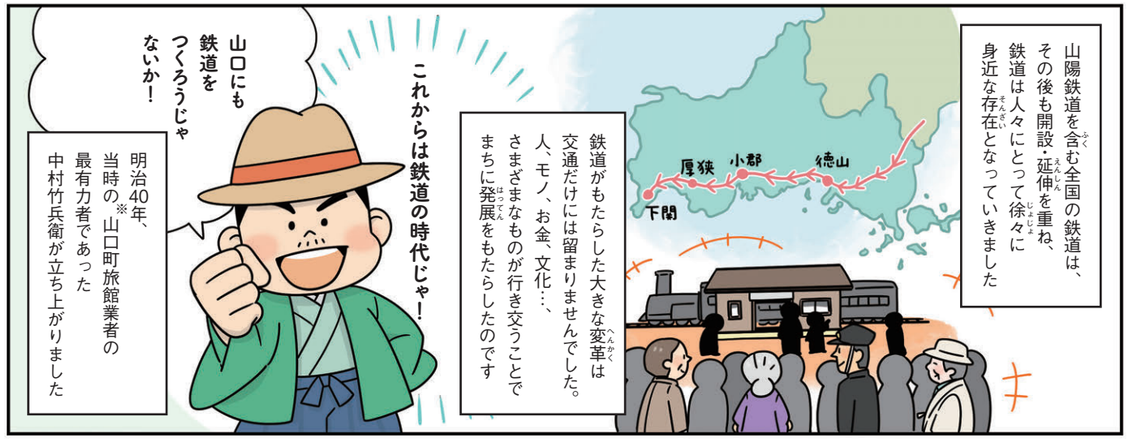
山口鉄道ものがたり

日本の鉄道の歴史は明治5年、新橋―横浜間の開通から始まりました

明治30年にはついに山口県にも鉄道が登場。山口県初の鉄道は、山陽鉄道の広島―徳山間でした



山陽鉄道を含む全国の鉄道は、その後も開設・延伸を重ね、鉄道は人々にとって徐々に身近な存在となっていきました



鉄道がもたらした大きな変革は交通だけには留まりませんでした。人、モノ、お金、文化…、さまざまなものが行き交うことでまちに発展をもたらしたのです

これからは鉄道の時代じゃ！

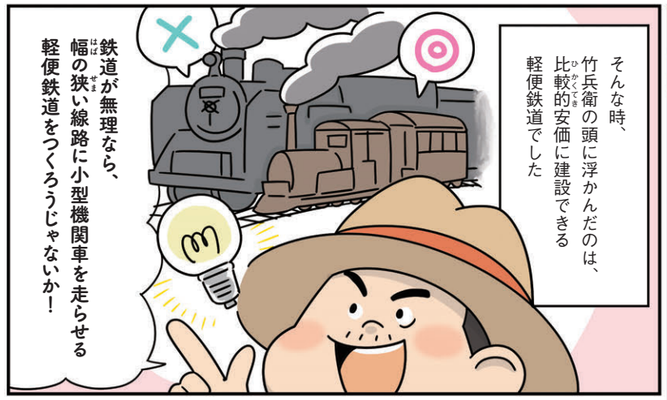
山口にも鉄道をつくろうじゃないか！

明治40年、当時の※山口町旅館業者の最有力者であった中村竹兵衛が立ち上がりました

竹兵衛は山口―小郡間の鉄道敷設運動を展開しました

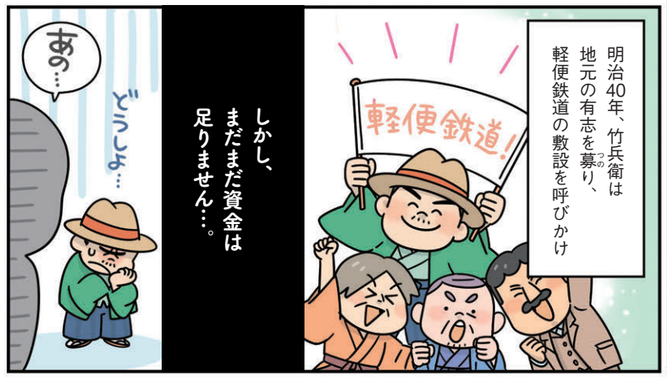
しかし、鉄道敷設には莫大な資金と土地が必要。山口町に鉄道を敷設するのは夢のまた夢と思われたのです

そんな時、竹兵衛の頭に浮かんだのは、比較的安価に建設できる軽便鉄道でした

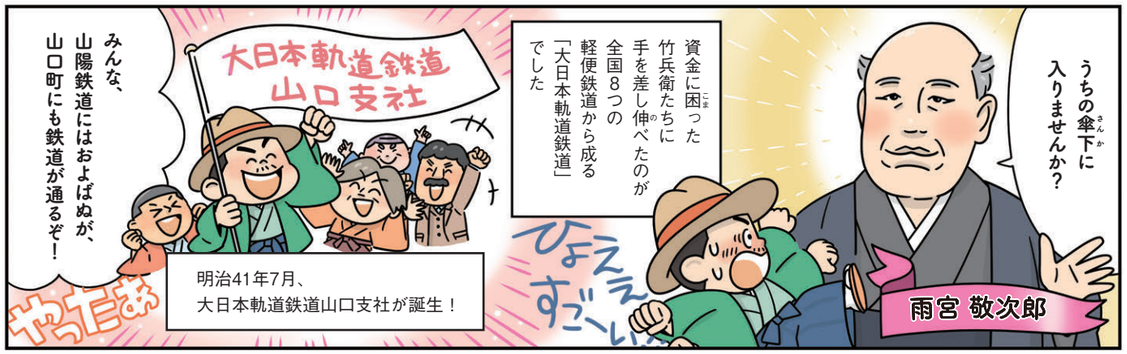


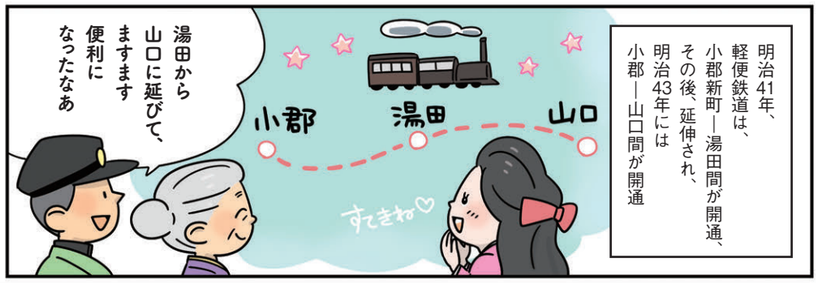
鉄道が無理なら、幅の狭い線路に小型機関車を走らせる軽便鉄道をつくろうじゃないか！

明治40年、竹兵衛は地元の有志を募り、軽便鉄道の敷設を呼びかけ

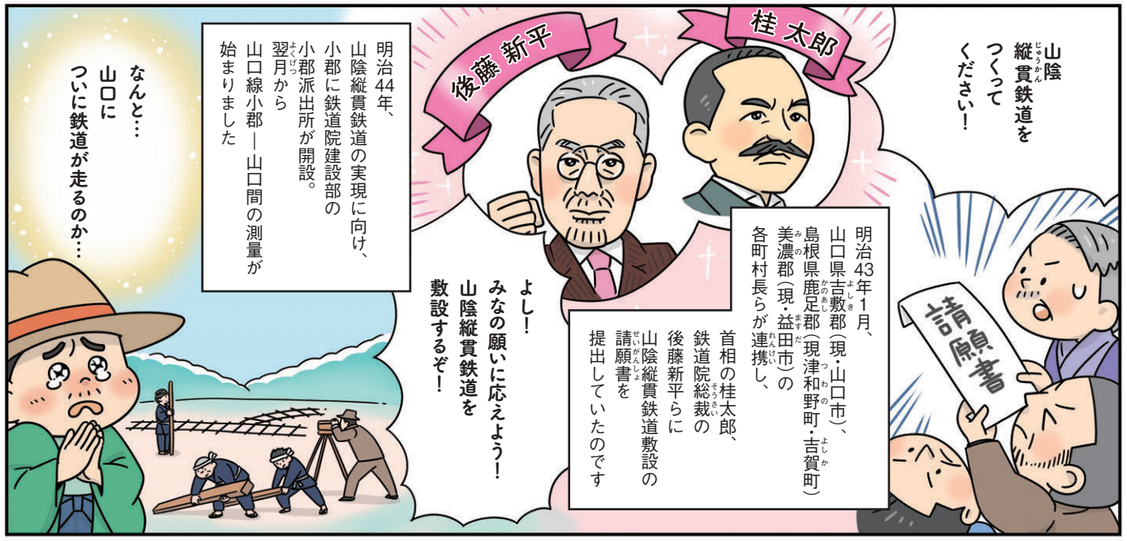


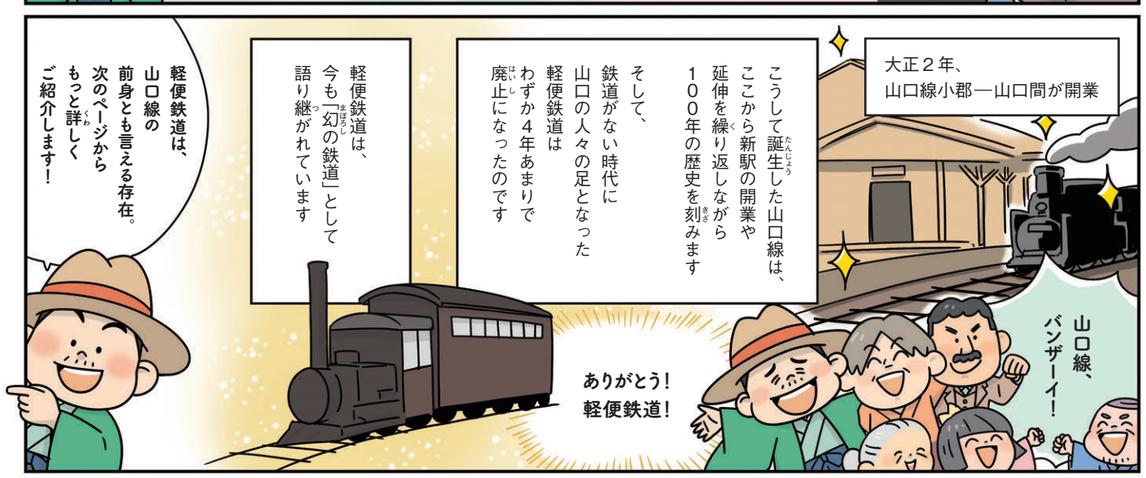
※山口町と吉敷村の合併により、昭和4年4月10日に市制が施行され山口市となりました。





町の人々の念願が叶い、ようやく走り出した軽便鉄道ですが、一方で、違う計画が進んでいました





※この物語は史実をもとにしたフィクションです。

幻の鉄道を経て、JR山口線が誕生。

JR山口線が誕生する以前、山口にはたった4年しか存在しなかった「幻の鉄道」がありました。まずはその「幻の鉄道」の物語から紐解いていきましょう。

わずか25年の間に、全国に広がった鉄道網

日本に初めて鉄道ができたのは明治5（1872）年。新橋―横浜間を皮切りに各地にて敷設が進み、明治末期にはほぼ全国に鉄道網が完成しました。この急速な鉄道敷設の背景には、鉄道を媒介に政治制度の全国的統一や軍事力の強化などを推し進めたいという、新政府の思惑があったようです。

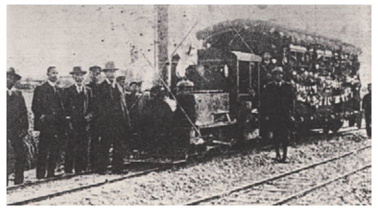
山口県に鉄道が初めて登場したのは、明治30（1897）年のこと。広島―徳山間を結ぶ山陽鉄道でした。その後、山陽鉄道は、三田尻（現・防府）、厚狭と延び続け、最終的には馬関（現・下関）まで到達。山口県に限らず、全国各地の停車駅がある地域では、人だけでなく、物も文化も往来し、どんどん栄えていきました。

鉄道の重要性を知り山口でも敷設運動が

鉄道が走るまちが栄えていく様子を見て、「山口にも鉄道を！」と立ち上がったのが、山口町旅館業者の有力者・中村竹兵衛でした。竹兵衛はすぐに山口鉄道委員会を立ち上げ、山陽鉄道につながる鉄道の敷設を模索し始めます。しかし、鉄道敷設には莫大な費用と広大な土地が必要。そこで、竹兵衛ら委員会が目をつけたのが、幅の狭い線路に小型機関車を走行させる「軽便鉄道」でした。

軽便鉄道と言えども費用は足りず…。大日本軌道の傘下に

竹兵衛らは明治40（1907）年に「山口軌道株式会社」を設立しましたが、ここでもまた資金不足に悩まされます。そこで、翌年には甲州出身の資本家・雨宮敬次郎が経営する全国の軌道8社から成る「大日本軌道株式会社」の傘下に入ることを決めたのでした。これにより軽便鉄道会社「大日本軌道株式会社」山口支社が誕生し、明治41（1908）年に小郡新町―湯田間が開通、その後、明治43（1910）年に小郡―山口間が開通されました。



開通した山口市の軽便鉄道
（提供：山口市歴史民俗資料館）

山口―小郡間を1日16往復！山口の人々が歓喜した初の鉄道

明治43（1910）年、ようやく山口―小郡間で開通した念願の軽便鉄道は、約1時間をかけて山口駅と小郡駅を結びました。ほとんどが石州街道に沿うように敷設され、まち並みの部分のみ避けるように別のルートが選ばれました。開業当初は1日7往復でしたが、後に16往復に増便されたことから、まちの人々の生活に欠かせない交通手段として定着していったことがうかがえます。

自由に乗り降りする学生たち、運転手に憧れる子どもたち

軽便鉄道を走っていたのは、俗に「へっつい（かまどの意味）」機関車と呼ばれる低重心小型機関車で、主に雨宮鉄工所（現在は廃業）や石川島造船所（IHI）で製造されていました。停車場も時刻表も定められてはいましたが、手を挙げると他の場所でも停まってくれ、乗車できていたようです。現在の鉄道とは異なり、元気な学生が途中で飛び乗ったり、飛び降りたりする光景も見られたようです。また、軽便鉄道の運転士は当時の子どもたちの憧れの的だったとか。人々の暮らしを変え、子どもたちにも大きな影響を与えた軽便鉄道。しかし、わずか4年余りで廃線を迎えます。

明治43年、山口―小郡間に鉄道敷設が決定！幕を閉じた軽便鉄道

多くの人々の希望を背負い山口のまちを駆け抜けた軽便鉄道ですが、明治43（1910）年、島根県の出雲今市（現・出雲市）―小郡間をつなぐ山陰縦貫鉄道の敷設案が持ち上がったことでその運命は大きく変わります。山陰縦貫鉄道敷設計画はあっという間に動き出し、同年12月には、山口線小郡―山口間を敷設して同鉄道に編入することが決定されました。翌年4月には小郡に鉄道院建設部の小郡派出所が開設され、その翌月から測量がスタート。その後、小郡方面から工事が開始され、大正2（1913）年2月、山口線小郡―山口間はついに開業に至ります。

新たに誕生した山口線にバトンをわたす形で、大日本軌道の軽便鉄道は廃止されました。存在期間はわずか4年あまり、これが「幻の鉄道」と言われる所以です。

軽便鉄道敷設をサポート！

【陸軍大臣 寺内正毅】

山口軽便鉄道の敷設区間の一部が、陸軍省の行軍道路に重なっていました。使用許可を得るために陳情した相手は、当時の陸軍大臣・寺内正毅。山口出身の寺内正毅は、すぐに使用を認めました。

嘉永5（1852）年～大正8（1919）年。吉敷郡平川村（現・山口市）生まれ。
第1次桂内閣、第1次西園寺内閣、第2次桂内閣で陸軍大臣を務める。
大正5（1916）年に内閣総理大臣に就任（任期1年）。満67歳で亡くなった。
出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」（https://www.ndl.go.jp/portrait/）

【軽便鉄道 路線図】

軽便鉄道は全長12.915km、停車駅・停留所が全部で10箇所ありました。

▼中国電力山口支店付近

開設当時、「山口駅」と呼ばれていましたが、その後、延伸され、新たに山口駅が誕生したことで、「亀山駅」に改称されました。つまり、「初代山口駅」ということになります。

◀一の坂交通交流広場付近

▲松田屋ホテル付近

▲下湯田公会堂付近

▲椹野川と吉敷川の分岐点近くに残る和田橋付近

現在の和田橋▶

※写真は当時の駅・停留所があったとされる場所の現在の様子です

目指せ！軽便鉄道マニア!?

【山口県の軽便鉄道】

明治から昭和にかけて、人々の足となり、地域の発展に貢献した軽便鉄道。山口県内では山口市以外の地域にも軽便鉄道は存在しました。

【防府】防石鉄道

防府市から山口市徳地堀まで12駅を有した軽便鉄道。JR防府駅西側の高架線脇には、現在も当時の車両が保存されています。

【宇部】船木軽便鉄道（略称：船鉄）

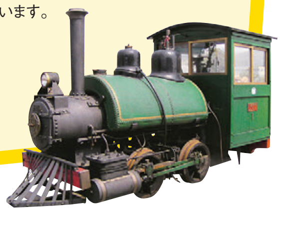
社名の「船木」は、旧楠町（2004年11月に宇部市と合併）の中心市街地が由来。宇部駅から吉部まで13駅を有しました。

【下関】長門鉄道

豊浦郡小月村（現・下関市小月）から同郡西市村（現・下関市豊田町西市）まで12駅を有した軽便鉄道。2021年9月、当時の蒸気機関車（通称「長門ポッポ」）が74年ぶりに帰還し、道の駅「蛍街道西ノ市」にてその姿を見ることができます。

【下松】下工弁慶号

下松市で保存されている「下工弁慶号」は、走行可能な状態で現存する軽便鉄道用蒸気機関車としては日本最古。現在、下松市役所グリーンプラザ展示格納庫に展示されています。



さらっとおさらい！【山口線歴史年表①】明治30年～大正2年

▼明治33（1900）年
12月3日
山陽鉄道が三田尻―厚狭間を延伸し、小郡（現・新山口）駅が開業

▼明治40（1907）年
12月
山口町旅館業者の最有力者・中村竹兵衛が地元の有志を募って山口軌道株式会社を設立

▼明治41（1908）年
7月
軽便鉄道会社「大日本軌道株式会社」が山口軌道株式会社を併合し、山口支社を設立
10月15日
新町（山口市小郡新町）―湯田間で軽便鉄道線を開業

▼明治43（1910）年
11月16日
大日本軌道の小郡―山口間の軽便鉄道線が完成。これにより全線開通となる
12月15日
山口線小郡―山口間を敷設し、山陰本線への編入が決定

ここで誕生したのは「二代目山口駅」。延伸前は「亀山駅」が「山口駅」と呼ばれていました。つまり、名称だけでいえば、現在の「山口駅」は3代目ということに！

山口県吉敷郡（現・山口市）、島根県鹿足郡（現・津和野町、現・吉賀町）・美濃郡（現・益田市）の各町村長らにより、山陰縦貫鉄道（山陰本線）敷設が請願されました。

▼明治44（1911）年
4月14日
山口線敷設に向け、小郡に鉄道院建設部の小郡派出所を開設
5月
山口線小郡―山口間の測量がスタート

▼明治45（1912）年
3月
鉄道院が小郡方面から山口線敷設工事を開始

工事は大日本軌道の小郡―山口間の東側を並行する形で開始されました。

▼大正2（1913）年
1月
山口線山口―篠目間の工事、田代トンネル（仁保―篠目間）の掘削が開始される
2月20日
山口線の小郡―山口間が開業。大歳、湯田（現・湯田温泉）、山口の各駅が開業
山口線の開業に伴い、大日本軌道の軽便鉄道は廃止（7月に免許失効）

開業当時の山口線（小郡―山口間）は、1日8往復で所要時間35分！

交通・輸送手段から、観光も支える存在に。

JR山口線が全線開通を果たして100年。その間には、小郡駅（現新山口駅）が新幹線の停車駅になったり、SLの廃止と復活など、さまざまな出来事がありました。

開業当時の山口駅（提供:山口市歴史民俗資料館）

開業当時の湯田駅（提供:山口市歴史民俗資料館）

山口線はどんどん延伸！大正12年に全線が開通

大正2（1913）年2月の山口線小郡―山口間開業後、山口線は大正6（1917）年に篠目まで、大正7（1918）年に徳佐まで、大正11（1922）年に津和野まで…、と延伸を続けます。そして大正12（1923）年には津和野―石見益田（現益田）間が延伸され、山口線はついに全線開通に至りました。以後、山口線は「陰陽連絡線」として活躍し、小郡駅（現新山口駅）は、山陽本線と、さらには山陽新幹線と山口線とを結ぶ重要な拠点駅となりました。

わずか10年という急ピッチで成し遂げられた全線開通ですが、その道のりは決して容易なものではありませんでした。実は、山口線を津和野まで延伸するには、いくつものトンネルをつくる必要があったのです。そのうちの一つ、仁保―篠目間の木戸山トンネルでは工事中に崩落事故が発生。作業員56人が埋没し、23人が死亡するという痛ましい出来事でした。現在、仁保―篠目間の急勾配を力強く走るSLやまぐち号の姿が楽しめるのは、この時代の苦労があったからこそなのです。

全国で相次ぐSLの廃止。昭和48年には山口線からもその姿を消す

昭和40年代、鉄道の近代化・合理化、電化政策に伴い、蒸気機関車（SL）は全国各地で徐々に廃止されていきました。そして、昭和48（1973）年10月、ついに山口線からもその姿を消すことに。同年9月30日には、小郡―津和野間でD51形194号牽引の「SLさよなら列車」が運転され、山口線は全線無煙化を果たしました。ちなみに、D51形194号は、現在、津和野駅前に展示されています。

SLさよなら運転（提供:山口市小郡文化資料館）

D51形194号（提供:津和野町商工観光課）

進む鉄道の近代化。

【小郡が新幹線停車駅に】

山口線からSLが姿を消した約2年後の昭和50（1975）年3月、山陽新幹線の岡山―博多間開業に伴い、小郡駅（現新山口駅）が新幹線の停車駅となりました。実はこの時、国鉄から「山口」を含んだ駅名への変更が打診されました。実際に現在の駅名「新山口駅」になったのは、新幹線「のぞみ」の停車が決定した平成15（2003）年のことでした。

山陽新幹線開通（提供:山口市歴史民俗資料館〈左〉・山口市小郡文化資料館〈右〉）

『山口線歴史年表②』大正2年～令和5年

- **大正2（1913）年** 5月 鉄道院が山口建設事務所を開設
- **大正12（1923）年** 4月1日 津和野―石見益田間が延伸開業し、これで山口線が全通
  - 山口から篠目、三谷、徳佐、津和野と延伸し、ようやく全線開通へ！
- **昭和33（1958）年** 3月 小郡駅駅前広場の拡張工事が完成
  - バスターミナル駅としての機能が備わりました。
- **昭和48（1973）年** 9月30日 小郡―津和野間で「SLさよなら列車」が運転
  - 山口線からSLが姿を消した！
- **昭和50（1975）年** 3月10日 小郡駅（現新山口駅）が新幹線停車駅に 山口線初の特急「おき」が運転開始 8月12日 普通列車に新型気動車キハ47系を投入 12月26日 国鉄本社の役員会で、山口線での蒸気機関車復活運転が承認
- **昭和54（1979）年** 8月1日 SLやまぐち号が運転開始
  - 当日は約1万5000人のファンが詰めかけました！
- **昭和62（1987）年** 4月1日 JR西日本（西日本旅客鉄道）が発足
- **平成2（1990）年** 6月1日 ワンマン運転を開始
- **平成7（1995）年** 3月25日 SLやまぐち号利用者が100万人を突破
- **平成13（2001）年** 7月7日 特急「スーパーおき」が運転開始
- **平成15（2003）年** 10月1日 小郡駅を新山口駅に改称。新幹線「のぞみ」の停車駅に
- **平成16（2004）年** 3月13日 新山口―山口間で快速「やまぐちライナー」が運転開始
- **平成21（2009）年** 3月14日 新山口―山口間で快速「通勤ライナー」が運転開始。「やまぐちライナー」を廃止 3月28日 復活30周年を迎えたSLやまぐち号の出発式を新山口駅で挙行
- **令和5（2023）年** 山口線全線開通100周年

なぜ山口線が選ばれたの???

【SL復活に必要だった条件】

SL誘致を望む自治体に対し、国鉄はいろんな条件を出していました。ここではそのうちのいくつかを紹介します。

国鉄からの条件

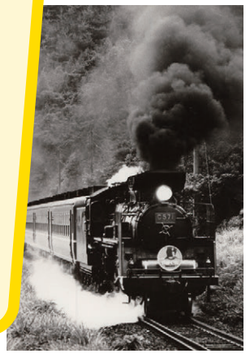
- 新幹線の停車駅があること
- SLが走る沿線に観光地があること
- SLに必要な設備が残っていること
- 機関士や検修員など経験者が機関区に在籍していること
- 沿線・地域住民の理解と協力が得られること　など

山口線には新幹線が停まる小郡駅（現新山口駅）があり、SLを休ませたり、整備・点検ができる施設が残っていました。また、沿線には湯田温泉や船平山のスキー場、津和野町の城下町などがあり、観光面における魅力も十分。鉄道の利用を促進したい国鉄のお眼鏡にかなったのです。

小郡駅（現新山口駅）転車台
（提供:山口市小郡文化資料館）

地域の熱い想いが伝わり山口線のSL復活が決定！

昭和53（1978）年7月、国鉄は中間報告として、北海道の湧網線と宮崎県の妻線、そして、山口県の山口線の3線区を有力候補にすることを発表します。広島鉄道管理局はすぐにSL営業運転推進委員会を設置し、本格的に始動。国鉄総裁が山口県に視察に訪れた際にSL復活を望む地域の熱い想いを伝えたこともあり、同年12月には山口線でのSL復活が決定されました。そして、昭和54（1979）年、小郡―津和野間でC57型1号の牽引による「SLやまぐち号」の運転が開始されたのです。


SLやまぐち号復活運転
（提供:山口市歴史民俗資料館）

SLやまぐち号復活運転
（提供:山口市歴史民俗資料館）

「もう一度、山口線にSLを！」SL復活に向けて動き出す

昭和53（1978）年、「人類の科学遺産として、また、教育面からもSLを復活させたい」という国鉄総裁の新春挨拶が全国に報道されました。また、それと時期を同じくして、私鉄「大井川鉄道」がSL復活運転を始めて注目を集めていたこともあり、過疎化に悩む地域や観光地への集客を狙う全国30線区以上がSL誘致に名乗りを上げました。もちろん、山口線もその一つ。山口県観光連盟は山口線を管轄する広島鉄道管理局にSL誘致を陳情したのです。

ここでちょっと裏話…

【復活決定後の道のりも長かった！】

SL誘致合戦を勝ち抜いた山口線ですが、その後も「沿線住民の理解を得る」のに苦戦。地元自治体や観光協会などの関係者を中心に結成した「山口線SL運行対策協議会」は、連日、住民に根気強く説明して回りました。また、周辺の安全チェックやその対策にも追われたと言います。ほか、山口線からSLが姿を消して5年半が経っていたため、機関士も検修員も技術を取り戻すための過酷な研修と試験に臨みました。

そして2023年、山口線は全線開通100周年を迎える

山口線にSLが戻ってきてから早44年、山口線が全線開通を果たしてから100年。現在、山口線は地域の人々の生活に欠かせない交通や輸送の手段の一つとしてだけでなく、観光を支える重要な役割を担う存在になっています。交通系ICカードの導入など、着実に近代化も進む山口線。その活躍はこの先もまだまだ期待できそうです。

JR山口線大解剖！

JR山口線には開通当時の駅舎や給水塔など数々の鉄道遺構が残ります。ここではそれらの鉄道遺構と山口線にまつわる小話をご紹介します。

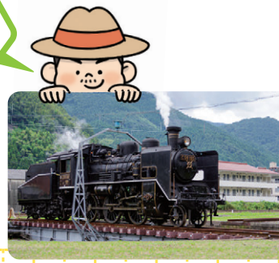
SL運行を支えた貴重な産業遺産 旧桂ヶ谷貯水池堰堤

山口線小話 3

ゲンジボタルの名所として知られる四十八瀬川支流の桂ヶ谷川に築かれた、れんが造りの小さなダム。堤長約24m、堤高約13m、堤幅約3m、表面石積の重力式コンクリート造堰堤で、大正12（1923）年に完成し、昭和30（1955）年頃まで現役で活躍していました。実はこのダム、山口市の鉄道交通の発達を支えた影の立役者。このダムのおかげで、SL運行に必要不可欠な水が十分に確保できたため、鉄道の重要拠点となる機関庫を旧小郡駅に設けることができたのです。平成28（2016）年には国の登録有形文化財となり、貴重な産業遺産として注目されています。

【津和野駅転車台】

転車台がないとSLは進む方向を変えられないんだよ！



津和野駅に到着した「SLやまぐち号」の水と石炭の補給作業や方向転換のために使われる転車台。津和野駅から益田方面に向かって徒歩約5分の場所にあります。

ココまで! 大正11（1922）年8月

ココまで! 大正12（1923）年4月

益田

津和野

※青野山駅から本俣賀駅までは省略しています。

ココまで! 大正7（1918）年11月

船平山

徳佐

鍋倉

ココまで! 大正6（1917）年7月

長門峡

渡川

三谷

名草

地福

篠目

【徳佐駅駅舎】

大正7（1918）年11月開業時の駅舎が今も使われています。津和野延伸までの5年間は終着駅でした。

【徳佐川橋梁】

大正11（1922）年に架けられた、日本に三橋しか現存しない貴重なラチス桁橋です。公益社団法人土木学会選奨近代土木遺産に認定されています。

【第一阿武川橋梁（長門峡鉄橋）】

長門峡駅近くにある、阿武川にかかる鉄橋。鉄道ファン、SLファンに人気のスポットです。

山口線小話 1

JR西日本初の特急！スーパーおき

新山口から鳥取・米子間を運行する「スーパーおき」は、JR西日本初の新型気動車特急として平成13（2001）年7月にデビュー。山口県では唯一の在来線特急列車です。

山口線小話 2

1978年から現役で走り続けるキハ40系

山口線では、国鉄時代の昭和53（1978）年に運行を開始したキハ40系が今も現役で走っています。かつてこのキハ40系は、北海道から九州まで全国各地の非電化路線で普通列車として使われてきました。しかし、現在は新世代のローカル線向け車両が次々と登場し、その数は減るばかり…。ところが、山口線ではキハ40系・47系が当たり前のように往来！山口市民が普段何気なく乗っている列車は実はとっても貴重な車両なんです！

【清水橋梁】

周防下郷駅と上郷駅の間にある小さなアーチ橋。レンガと石を組み合わせてつくられています。

【篠目駅給水塔】

大正時代に建設されたと考えられる赤レンガ造りの給水塔と腕木式信号機が今も残ります。ちなみに、篠目駅はTBS日曜劇場「砂の器」のロケ地に使用されたスポットとしても知られます。

ココまで! 大正2（1913）年2月

上山口

宮野

仁保

山口

大歳

矢原

仁保津

湯田温泉

周防下郷

上郷

新山口

昭和36（1961）年に「湯田駅」から「湯田温泉駅」になったよ

開設時、「山口日赤前駅」という名称も候補に挙がっていたよ

【新山口駅転車台】

新山口駅に今も残る転車台。最盛期、小郡機関区には2基の転車台がありました。

【レノファ山口応援駅】

Jリーグ所属のレノファ山口FCのホームスタジアム「維新みらいふスタジアム」の最寄り駅・大歳駅は、レノファカラーのオレンジがあしらわれた「レノファ山口応援駅」。駅前にはレノファ山口FCのマスコット「レノ丸」の可愛いポストも立っています！

【宮野駅駅舎】

大正6（1917）年に開業された当時の駅舎です。駅前には、宮野駅開設を記念して植栽されたカイヅカイブキがあります。

行ってみてん！ 山口線沿線のおすすめスポット

JR山口線の沿線には楽しいスポットが盛りだくさん！気になる駅でふらりと下車し、ちょっと足を伸ばしてみてはいかがでしょう？

仁保エリア

道の駅 仁保の郷 仁保駅

地元で採れた新鮮な野菜やフルーツなどの直売所、地元産の素材を使ったメニューが楽しめるレストランが人気の道の駅。

住 山口県山口市仁保中郷1034
営 8:30～17:00 休 水曜 問 083-929-0480
https://www.nihonosato.com

GOURMET 名物グルメ！
仁保の美しい水を使った「雷豆腐」は食べる価値ありの逸品！

仁保一貫野のふじ 仁保駅

「道の駅 仁保の郷」近くに自生するふじ。5月上旬頃に見ごろを迎え、まるで薄紫のカーテンがかかったような圧巻の光景が楽しめます。

住 山口県山口市仁保一貫野地区
問 083-929-0411（仁保地域交流センター）

新山口エリア

photo：木村雄司

第17回屋上・壁面緑化技術コンクールにて国土交通大臣賞を受賞！

垂直の庭 新山口駅

フランス人の植物学者兼アーティストのパトリック・ブラン氏がデザインを手がけた庭。新山口駅の南北自由通路の壁面約100mにわたって設置され、山口県内で採取した約140種類の植物が彩られています。

船方農場CAFE新山口店 新山口駅

新山口駅の北口側2階に位置する、山口市阿東徳佐にある船方農場直営のカフェ。阿東の大自然で育った牛の新鮮なミルクやチーズを使った自慢のグルメが味わえます。

営 10:00～19:00（LO18:30）
休 火曜 https://funakata.co.jp

GOURMET 名物グルメ！
船方農場の素材を使う、自然のおいしさがつまった「船方農場ファームチーズケーキ」

船方農場は徳佐駅から車で約5分！

阿東エリア

徳佐八幡宮しだれ桜 徳佐駅

徳佐八幡宮参道の両側に、しだれ桜とソメイヨシノが合わせて約360本植えられた西日本屈指の桜スポットで、毎年多くの花見客が訪れます。令和4（2022）年3月に国の名勝に指定。

住 山口県山口市阿東徳佐中3761
問 083-956-2526（NPOあとう）

長門峡 長門峡駅

山口県屈指の名勝。春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色と四季折々の美しさが堪能できます。散策するなら、「道の駅 長門峡」から整備された約5.1kmの遊歩道がおすすめ。

住 山口県山口市阿東・萩市川上
問 083-956-2526（NPOあとう）
083-955-0777（道の駅 長門峡）

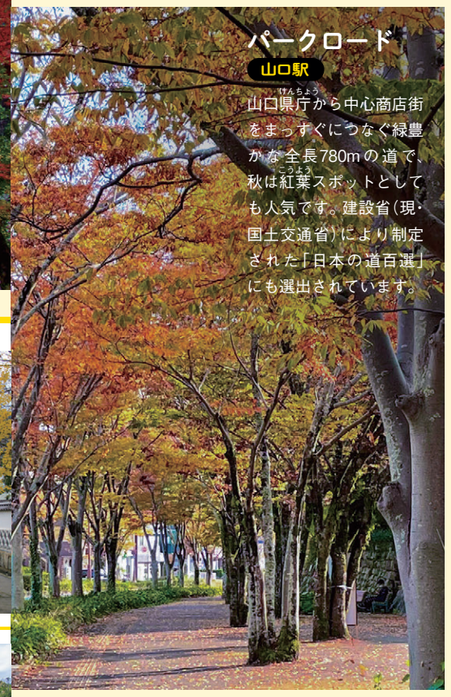
徳佐りんご狩り 鍋倉駅

中国山地に抱かれた阿東徳佐地区は、高原の気候を生かしたりんご栽培が盛ん。鍋倉駅から徒歩10分以内のエリアに、20ヶ所の観光りんご園が点在します。

問 083-956-0553（徳佐りんご組合）
http://www.tokusa-ringo.net

GOURMET 名物グルメ！
いろんなりんごグルメも楽しめる！

山口・湯田エリア



パークロード 山口駅

山口県庁から中心商店街をまっすぐにつなぐ緑豊かな全長780mの道で、秋は紅葉スポットとしても人気です。建設省（現・国土交通省）により制定された「日本の道百選」にも選出されています。

維新みらいふスタジアム 大歳駅

Jリーグに所属するレノファ山口FCのホームスタジアム。収容人数は約2万人で、大型映像装置や雨天練習場なども備えています。大歳駅から徒歩で約12分。

住 山口県山口市維新公園4丁目1番1号
問 083-922-2788
https://www.ishin100.com/

湯田温泉駅前足湯＆ゆう太モニュメント 湯田温泉駅

湯田温泉駅といえば、無料で楽しめる足湯（入浴時間10:00～22:00）と白狐「ゆう太」の巨大モニュメント！

湯田温泉観光回遊拠点施設 狐の足あと 湯田温泉駅

湯田温泉や山口の情報を発信する観光回遊拠点施設で、館内には山口ならではのグルメが味わえるカフェや足湯、ギャラリースペースも。湯田温泉観光ならまずはここから！

住 山口県山口市湯田温泉2-1-3
営 8:00～22:00
料 入館無料、足湯は大人200円・小中学生100円
休 なし
問 083-921-8818
https://www.yuda-onsen.jp

GOURMET 名物グルメ！
山口の銘菓「外郎」がのった定番の人気メニュー「外郎ミニパフェ」！

軽便鉄道に触れよう！ 一の坂川交通交流広場 山口駅

かつて軽便鉄道の山口駅があった場所につくられた広場。蒸気機関車をモチーフにした複合遊具や案内板が設置され、軽便鉄道の歴史を今に伝えています。

問 083-934-2773（山口市都市整備課）

津和野エリア

殿町通り 津和野駅

「山陰の小京都」といわれる津和野のメインストリートで、藩校養老館跡や郡役所跡など多くの史跡が集中しています。白壁の土塀や掘割を優雅に泳ぐ鯉を眺めながらの散策がおすすめ。

問 0856-72-1771（津和野町観光協会）
http://tsuwano-kanko.net

一の坂川 山口駅

山口市の中心部を流れ、春は桜やツツジ、初夏は国の天然記念物に指定されているゲンジボタルが舞う姿を鑑賞できる一の坂川。山口市を代表する観光スポットの一つです。

GOURMET 名物グルメ！
秘伝のタレを使った“黒いいなりずし”や源氏巻は土産にぴったり！

太皷谷稲成神社 津和野駅

日本五大稲荷の一つに数えられる神社で、願望成就の「成」をとって「稲成」と表記します。参道にぎっしりと並んだ朱塗りの鳥居は、その数なんと約1,000本！境内から望む津和野の町並みも必見です。

問 0856-72-0219（太皷谷稲成神社）
http://taikodani.jp

撮り鉄さんに聞いてみた！

山口線SL運行対策協議会 吉永昂弘さん

山口線沿線ののどかな景色と力強いSLの走りは相性抜群！ 仁保駅付近の急勾配でのフル走行と、船平山駅付近の田園風景を走り抜ける姿は必見です。篠目駅でこだまする美しい汽笛にもぜひ耳を傾けてみてください！

https://www.c571.jp
（SLやまぐち号公式ホームページ）

集めてみました！

山口線ゆかりのいろいろ。

山口線が登場する作品や
山口線を愛した人々をご紹介。
山口線は交通手段の一つとして
暮らしを支えてきただけでなく、
数々の文化も育んできました。

ゆかりの作品

長編推理小説 山口線〝貴婦人号〟

1981年に発表されたJR山口線が舞台の鉄道ミステリー小説。1996年にドラマ化されたことでも大変話題になりました。

『山口線"貴婦人号(エレガンス・トレイン)"』
草野唯雄　光文社文庫

ゆかりのひと

山口市が誇る近代詩人 中原 中也〈1907-1937〉

近代詩人・中原中也は山口市に軽便鉄道が開通した翌年、湯田温泉にて誕生。しばらくの間、山口市を離れていましたが、山口線が開通した翌年から生家に戻ります。後に京都から東京へと移り住みましたが、帰省には山口線を利用していました。

中学校時代の短歌に旅情を誘う汽笛の響きが歌われ、亡くなった父親を回想する際にも汽車の思い出を語っています。

中原中也（中原中也記念館提供）

友とこころぶれんげ田に風
そよ吹きて
汽車の汽笛の遠く鳴るなる

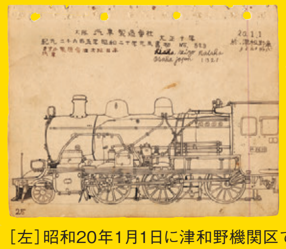
※中学生時代の短歌より

ゆかりのひと

日本を代表するアニメーター 大塚 康生〈1931-2021〉

「ルパン三世」や「未来少年コナン」などの作画監督を務めたアニメーター大塚康生氏は、1931年、島根県生まれの山口県育ち。少年期に山口市（旧小郡町）や島根県津和野町で描いた山口線の蒸気機関車のスケッチが数多く残っています。

写真・南正時



［左］昭和20年1月1日に津和野機関区で描かれたスケッチ。津和野機関区に配属されていた急行列車用機関車（大正時代に作られた8620形）。
［右］大塚康生氏が少年時代に夢中になった機関車画から、アニメ、模型の仕事まで紹介している一冊。『大塚康生画集「ルパン三世」と車と機関車と』大塚康生　玄光社

ゆかりの作品

長編推理小説 SLやまぐち号殺人事件

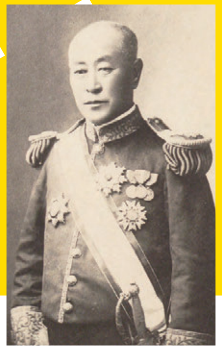
2022年3月、91歳で逝去したベストセラー作家、西村京太郎氏の絶筆で、同年8月に発売されました。

『SLやまぐち号殺人事件』
西村京太郎　文藝春秋

鉄道といえば…

日本の「鉄道の父」 井上 勝〈1843-1910〉

1843年、萩藩士の井上家の子として生まれた井上勝。幕末に伊藤博文らとともにイギリスへ密航留学した、いわゆる「長州ファイブ」の一人です。留学中に鉱山や鉄道について学び、帰国後は新政府に登用され、初代鉄道頭に大抜擢！新橋―横浜間に日本最初の鉄道を開設させたほか、日本の鉄道の発展に力を尽くしたことから「鉄道の父」と呼ばれています。



出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」（https://www.ndl.go.jp/portrait/）

トピックス 1

2023年4月から湯田温泉駅と山口駅でICOCAの利用が可能に！

2023年4月1日より、JR山陽線徳山～下関駅間、JR山口線の湯田温泉駅、山口駅において、「ICOCA」など交通系ICカード10種類が利用できるようになりました（JR山口線ではきっぷの機能のみ）。あらかじめ「ICOCA」にお金をチャージしておくことで、改札機にタッチするだけで、乗車区間の運賃を自動的に精算することができます。また、「ICOCA」は鉄道だけでなくチャージされている電子マネーで、お買い物にも利用できます。

問：西日本旅客鉄道株式会社

トピックス 2

JR山口線全線開通100周年記念事業

山口線全線開通100周年特別企画展「小郡黒鐵黄金時代」

山口線全線開通100周年と記念した企画展。全盛期の小郡機関区を支えた鉄道関連施設や蒸気機関車、SLやまぐち号の歴史などの紹介するほか、スタンプラリーや周遊イベントも実施予定です。旧桂ヶ谷貯水池堰堤竣工100年、新山口駅へと駅名改称20年の節目の年にぴったりな見どころ満載の企画展です！

会場：山口市小郡文化資料館
住所：山口県山口市小郡下郷609番地3
電話：083-973-7071
会期：2023年9月16日（土）～11月26日（日）
開館時間：9時～17時（入場は16時30分まで）
休館日：月曜（祝日・振替休日の場合はその翌平日）、年末年始
入館料：無料

山口市はアートなしにしてならず!?

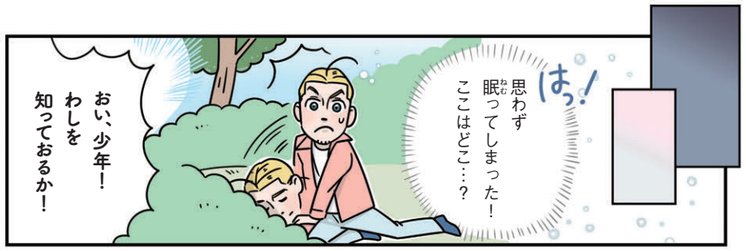
アートのまち、山口市。

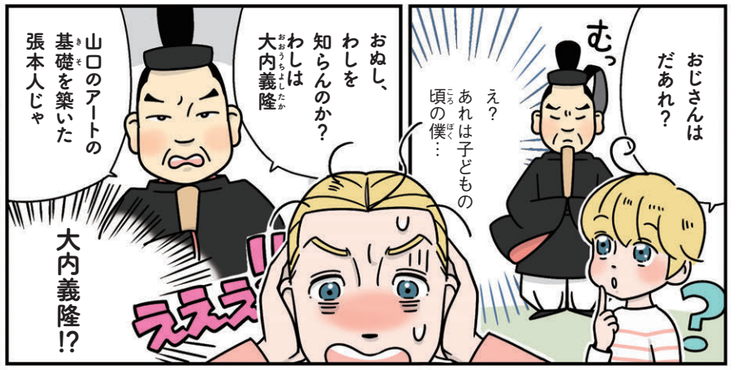
まちのあちこちにアートがあふれる山口市。瑠璃光寺五重塔や雪舟庭などの歴史的建築物や、山口県立美術館やクリエイティブスペース赤れんがなどアートを身近に感じられる施設が数多く点在します。

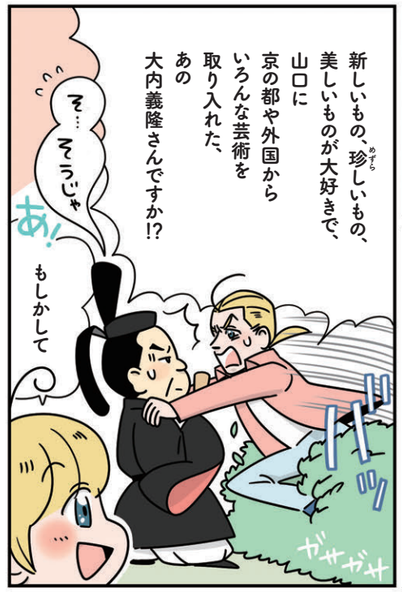
では、なぜ山口市にはアートの土壌があるのでしょう？ともにそのルーツを探っていきましょう。

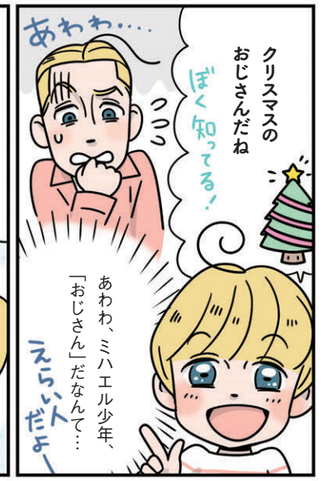
こんにちは！ミハエルです。高校卒業までを山口市で過ごし、現在はドイツのライプツィヒ大学大学院で日本文化を研究しています。山口市で大好きな場所は、小学生の頃からよく足を運んでいたYCAMです。YCAMでいろんなアートにふれた経験は今の私の原点です。今回は山口市のアートとYCAMの魅力を皆さんにお伝えできれば幸せです。

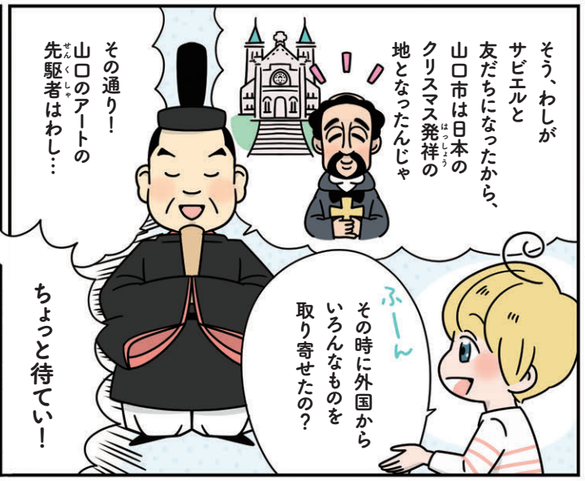
ナビゲーターは…
エムデ ミハエルさん

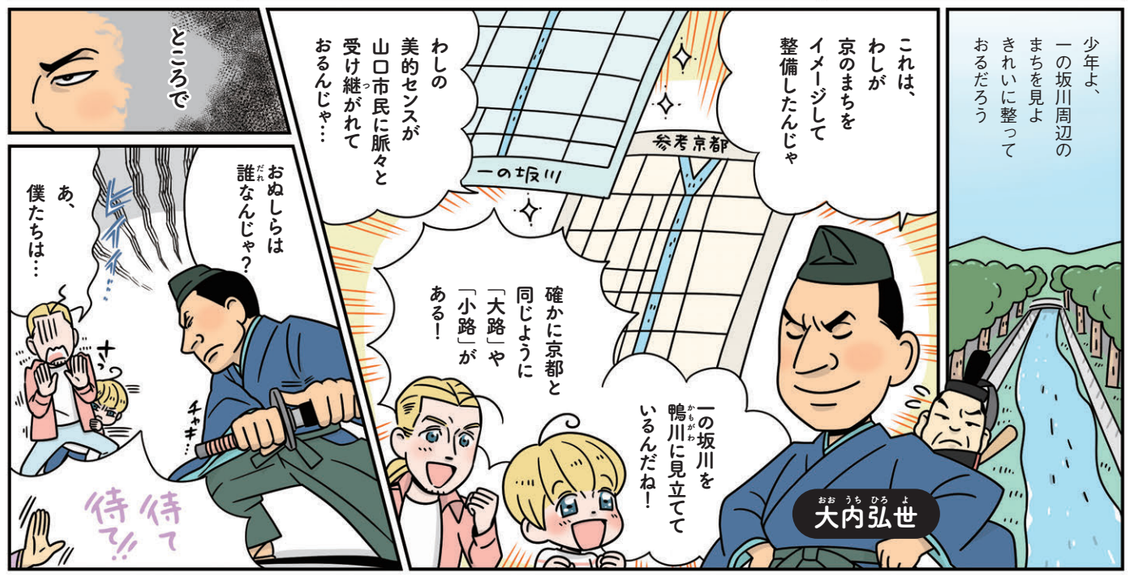


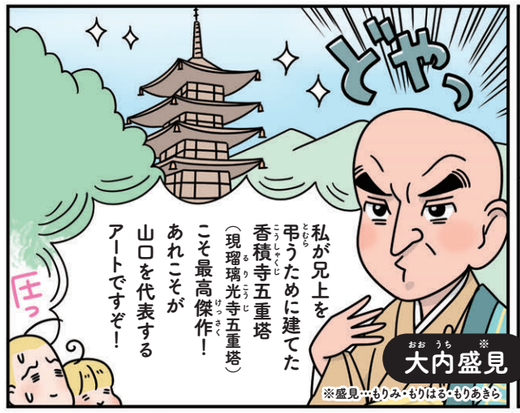


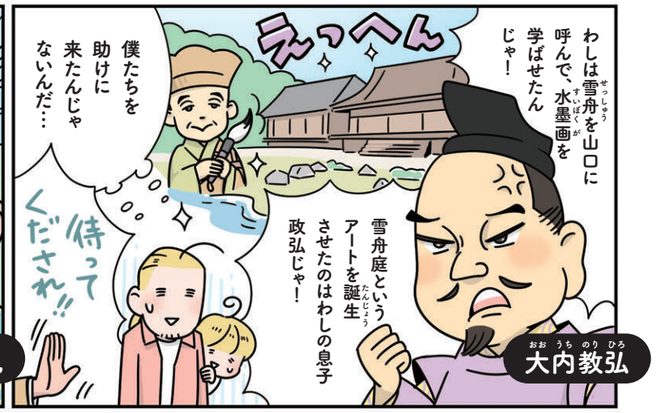


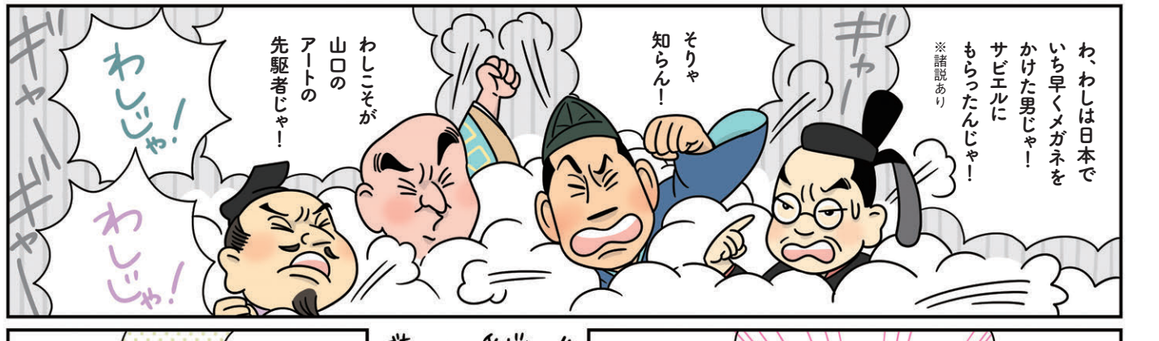


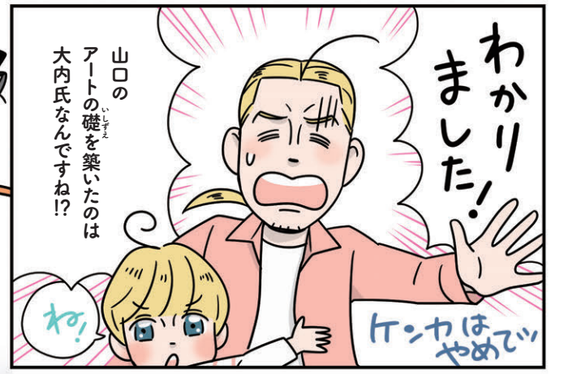












※この物語は史実をもとにしたフィクションです。

歴史的建造物から現代アートまで。大内文化が花開いた山口市は、さまざまなアートが集結したまち。

京の高い文化や情緒に感銘を受けた大内弘世が、京を模したまちづくりを始めたのは1360年頃のことといわれています。それ以降、歴代当主もまちづくりを展開し、京都的要素、大陸的要素、独自の要素と3つの要素を併せ持つ大内文化を花開かせました。大内氏から始まった「アートのある風土」は、今もなお山口市に脈々と受け継がれています。

これも大内氏由来のアート！

大内氏が残したものは建造物だけではありません。その技や風習も受け継がれ、山口市のアートとして息づいています。

山口七夕ちょうちんまつり

山口市の夏の一大イベント「山口七夕ちょうちんまつり」は、祖先を祀った大内氏の盆ちょうちんが、いつしか庶民の間に広まったと伝わる幻想的なお祭りです。毎年8月6・7日に開催されます。

山口祇園祭「鷺の舞神事」

大内弘世が京より勧請した祇園社（現在の八坂神社）で、室町時代から続く伝統奉納神事です。毎年、山口祇園祭の初日に奉納され、山口県の無形民俗文化財に指定されています。

大内塗

山口市に伝わる漆工芸で、京に憧れた大内氏が、都から漆塗り職人を山口市に呼び寄せ、漆器を作らせたのが始まりといわれています。平成元（1989）年に経済産業大臣指定伝統工芸品に指定されました。

雪舟は明に行った初めての日本人画家なんだって！

大内氏ゆかりの文化財

山口市内には大内氏ゆかりの文化財が点在！豪華絢爛な大内文化を反映したその規模や美しさなど、見どころ満載です。

常栄寺庭園

常栄寺境内にある日本庭園は、今から約500年前の室町時代中頃、大内政弘の命により、画僧・雪舟が当時の妙善寺に築庭したと伝わります。北・東・西の三方が山畔で囲まれ、中央に池泉、南に枯山水を配したその様子を本堂から見渡すと、まるで山水画のようといわれ、大正15（1926）年に国の史跡および名勝に指定されています。

住 山口市宮野下2001-1
時 4～10月8時～17時（入館は16時30分まで）、11～3月8時～16時30分（入館は16時まで）
料 大人300円、中・高校生200円
※小学生以下無料、障害者手帳所持者と付き添い1名各150円
問 083-922-2272（常栄寺）
http://sesshu.jp/

大内教弘

龍福寺本堂

龍福寺は、毛利隆元がかつての主君・大内義隆の菩提寺として、弘治3（1557）年に大内氏館跡に再興した寺ですが、明治14（1881）年の火災で禅堂と山門を残し焼失。再建の際、大内氏の氏寺であった興隆寺の釈迦堂を移築したのが現在の本堂です。室町時代に建立された大建築からは、大内氏の財力や勢力がうかがえます。昭和29（1954）年に国の重要文化財に指定。

住 山口市大殿大路119番地
問 083-920-4111（山口市文化財保護課）

国宝 瑠璃光寺五重塔

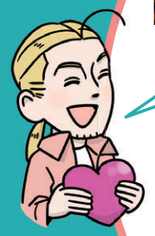
応永の乱で戦死した大内義弘の菩提を弔うために、弟の盛見が嘉吉2（1442）年に香積寺に建立。昭和27（1957）年に国宝に指定されています。高さは31.2mで、屋根には檜皮葺という日本古来の伝統的手法が用いられ、一説では京都の醍醐寺、奈良の法隆寺の五重塔と並ぶ、日本三名塔の一つに数えられています。

住 山口市香山町7-1
料 無料（瑠璃光寺資料館のみ有料）
問 083-920-4111（山口市文化財保護課）

※盛見…もりみ・もりはる・もりあきら

大内盛見

山口県屈指の観光スポットとしてたくさんの人に愛されているよ！



山口市の近代・現代建築

山口市には、明治・大正・昭和・平成に建てられた特徴ある建築物もたくさん。思わずシャッターを切りたくなるフォトジェニックなまちなんです！

山口県政資料館（旧県庁舎および旧県会議事堂）

大正2（1913）年に起工、大正5（1916）年に完成。当時の一流建築家・大熊喜邦氏や武田五一氏らにより設計されました。西洋の近代的な建築様式と東洋建築が融合した大正建築で、近代建築の展開を考えるうえで、極めて重要な建築物です。昭和59（1984）年に国の重要文化財に指定されています。

住 山口市滝町1番1号 **時** 9時～16時30分
休 月曜、祝日、年末年始
※5月5日と11月3日は開館
問 083-933-2210（山口県庁管財課）

山口サビエル記念聖堂

スペインのハビエル城の一部を模した旧サビエル記念聖堂が平成3（1991）年に焼失し、その後、7年の歳月をかけ、平成10（1998）年に再建されたのが現在の聖堂です。高さ53mの2本の塔と建物全体を覆う三角錐の屋根が特徴の近代的なデザインに生まれ変わりました。

住 山口市亀山町4-1
時 10時～17時
問 083-920-1549
http://www.xavier.jp

焼失前の山口サビエル記念聖堂

大内義隆

旧聖堂はサビエルが山口を訪れてから400年を記念して建てられたものだったんだって！

芸術・文化の小さな発信拠点として活躍する公共施設だよ！

クリエイティブ・スペース赤れんが

大正7（1918）年に建てられた旧山口県立山口図書館の書庫。図書館移転後、長らく使用されていませんでしたが、地元の建築士や学者らでなる「赤れんがの会」による保存運動で平成4（1992）年に再生。現在はホールを備えた公共の文化施設になっており、コンサートや展覧会などが開催されています。

住 山口市中河原町5-12
時 9時～17時
休 月曜（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日、年末年始
問 083-928-6666
http://www.akarenga.justhpbs.jp/

山口情報芸術センター（YCAM）

平成15（2003）年に誕生したアートセンター。日本を代表する建築家の一人、磯崎新氏が設計を手がけた周辺の山の稜線を思わせる波型の屋根が特徴です。

中原中也記念館

山口市が誇る近代詩人・中原中也の記念館。中也の生家跡地に建ち、平成10（1998）年に「公共建築100選」に選ばれました。

山口県立美術館

収蔵作品を紹介するコレクション展に加え、定期的に大規模な企画展を開催するなど、県の文化・芸術発信の中心的役割を果たしている美術館。桜と紅葉の季節は中庭「県美の森」も一見の価値あり。

住 山口市亀山町3-1
時 9時～17時（入館は16時まで）
休 月曜（祝日・休日の場合は開館）、年末年始、展示替期間
問 083-925-7788
https://www.yma-web.jp

県庁所在地の山口市には、県立美術館もあります！

ART MUSEUM

次のページからもっと詳しく紹介するよ！

2024年は開館30周年！24ページで紹介しているよ！

西洋建築では見られない、日本建築の伝統的な入母屋屋根が特徴だね！

大内氏が持ち込んだいろんなアートは令和を生きる僕らにとっても身近な存在だね！

クリエイティブが止まらない!? 山口市のアート拠点「YCAM」。

「山口情報芸術センター（通称「YCAM」）」は、山口市が全国・世界に誇る先進的・個性的、かつ親しみやすいアートセンター。今年で20周年を迎えた「YCAM」が、たくさんの人に愛される理由を探っていきましょう。

メディア・テクノロジーとアートが生むドッキドキの世界

YCAMは、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現を探究し続けるアートセンター。わかりやすく言えば、コンピューターや通信技術、映像など私たちの生活に欠かせない要素「メディア・テクノロジー」と、心を潤し、人生を豊かにしてくれる要素「アート（芸術）」とを結びつけ、これまで以上に気軽に楽しく、深い感動をもたらしてくれる施設です。

重視しているのは、「ともにつくり、ともに学ぶ」姿勢。そのため、YCAMを中心としたさまざまなバックグラウンドの人々とコラボレーションしながら、作品やワークショップなどを制作しているのが大きな特徴です。

館内には、展示空間のほか映画館や図書館、ワークショップ・スペースなどが併設され、各種展覧会や公演、映画上映、子ども向けのワークショップなど多彩なイベントが随時開催。つまり、誰もが気軽にドッキドキの先進的なアート体験ができる施設がYCAMなのです。

「見たことない！」と出会える場所 多彩なアートで来館者を魅了

YCAMでは、これまで20年間、さまざまな作品を制作・発表、多彩なワークショップを開催し、多くの来館者を魅了してきました。中には波のようにうねった床の広場の随所にメディア・テクノロジーを用いた仕掛けが埋め込まれた作品「コロガル公園」のようにシリーズ化され、国内各地で展開されているものも。YCAM発のアートは、あちこちで新しい未来を切り拓いています。

撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

波打った床と、照明や音響装置などを組み合わせた公園型の展示プロジェクト「コロガル公園コモンズ」。来場者は遊び方やルールを発明し、自分の責任で自由に遊べる。

YCAMってこんなとこ。

目的は、新しい未来を切り拓くこと! アートと社会を結ぶメディアの実験場

私たちを取り巻く社会では、メディア・テクノロジーが目まぐるしいスピードで進化し、これによりあらゆる局面で情報化が進み、その結果、コミュニケーションのあり方も刻々と変化しています。YCAMでは、市民やさまざまな分野の専門家と「ともにつくり、ともに学ぶ」ことで、メディア・テクノロジーとの適切な向き合い方、文化基盤としての情報の可能性、さらには人間にとっての情報の意味について探求し、その過程で生み出される表現や学びを世界に発信。これら一連の活動を通じ、新しい未来を切り拓くための次世代を担う人材の育成を目指しています。

山と調和するようにデザインされた、波型の屋根が特徴的。建物の設計は磯崎新氏。

今年で20周年を迎えたYCAMの魅力をおさらいしておこう!

【YCAMの研究開発プロジェクト】

YCAMで展開される研究開発プロジェクトでは、「芸術表現」「教育」「コミュニティ」の3つが重要とされています。

芸術表現

メディア・テクノロジーを応用したオリジナルの作品を制作・発表。これまで国内外の多くのアーティストや研究者、エンジニアが関わってきました。

教育

メディア・テクノロジーを用いた新しい表現と鑑賞者をつなぎ、好奇心や想像力を刺激する教育プログラムを制作・提供。オリジナルのワークショップも開発。

コミュニティ

さまざまな形で蓄積したメディア・テクノロジーにまつわる知識や経験を、山口の地域課題や資源に結びつける取り組みを重視。市民のものづくり活動を応援!

いろんな事業を展開しているんだね!

これまでのプロジェクト〈一例〉

YCAMバイオリサーチ（2015〜）

森などに入って採集した植物をDNA判定によって同定し、実際に訪れた場所の植生をもちいた図鑑を作成するワークショップ。写真は植物採集してきた葉を、試薬などを用いてDNA抽出している様子。

撮影：田邊アツシ

未来の山口の運動会（2015〜）

運動会の競技をゼロから作ってみるハッカソンと、実際にでき上がった競技を多くの参加者とともに遊ぶ運動会がセットになったイベント。映像やセンサーといった技術も組み合わせて、その場に居る人がだれでも楽しめる運動会が形作られる。

撮影：塩見浩介

RADLOCAL（2014,2016）

ネットワークが社会に浸透した時代において、地方都市がどのような可能性に満ちているのか考える、集中ワークショップ。様々な地域社会をリードする情報発信のエキスパートを育成するプロジェクト。

「360°図鑑」をぜひ見てみてね!

山口市教育委員会×山口情報芸術センター［YCAM］共同プロジェクト

やまぐち子ども未来型学習プロジェクト

Yamaguchi City Board of Education + YCAM collaborative project

2021年度に生雲小でスタート!

生雲小学校児童による学習発表会の様子

2021年9月から生雲小学校で「360°図鑑」の取り組みをスタート。2022年11月、その取り組みが高く評価され、「第19回日本e-Learning大賞」にて文部科学大臣賞を受賞しました!

やまぐち子ども未来型学習プロジェクト
https://mirai.yamaguchi-ygc.ed.jp

360°図鑑
https://zukan360.yamaguchi-ygc.ed.jp

文部科学省による「GIGAスクール構想」に基づき、山口市の小・中学生にタブレット型パソコンが配備されたことから、山口市教育委員会が学校教育における「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」を発足。2021年度より、山口市内の児童・教員、山口情報芸術センター［YCAM］と共に、子どもたちの視点で発見した地域の魅力をまとめたウェブ図鑑「360°図鑑」の作成に取り組んでいます。

2022年度は白石小・秋穂小でも実施!

2022年6月から白石小学校・秋穂小学校でも「360°図鑑」を作成しました。2023年度は全ての市立小学校で「360°図鑑」の活用を図る予定です。

白石小の活動の様子

自分たちの住む地域について調べ、地図の中に落とし込みます。

秋穂小の活動の様子

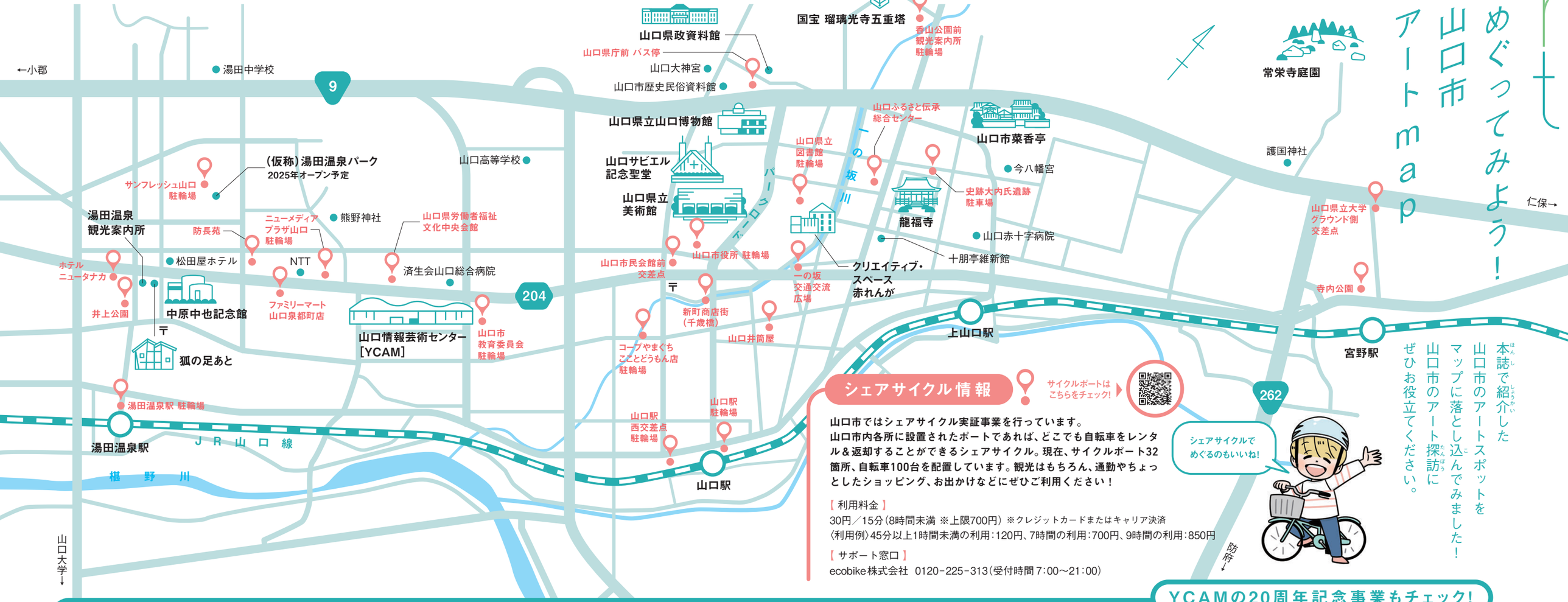
自分たちで見つけた地域の情報を詰め込んだ360°図鑑について発表。

小学生が活躍するプロジェクトだよ!

YAMAGUCHI CITY ART MAP

めぐってみよう！山口市アートmap

本誌で紹介した山口市のアートスポットをマップに落とし込んでみました！山口市のアート探訪にぜひお役立てください。



シェアサイクル情報

サイクルポートはこちらをチェック!

山口市ではシェアサイクル実証事業を行っています。
山口市内各所に設置されたポートであれば、どこでも自転車をレンタル＆返却することができるシェアサイクル。現在、サイクルポート32箇所、自転車100台を配置しています。観光はもちろん、通勤やちょっとしたショッピング、お出かけなどにぜひご利用ください！

【利用料金】
30円／15分（8時間未満 ※上限700円）※クレジットカードまたはキャリア決済
〈利用例〉45分以上1時間未満の利用：120円、7時間の利用：700円、9時間の利用：850円

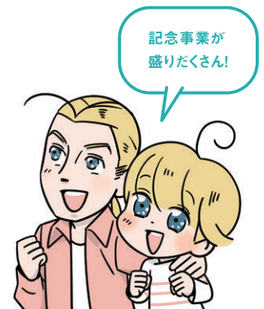
【サポート窓口】
ecobike株式会社　0120-225-313（受付時間7:00〜21:00）

YCAMの20周年記念事業もチェック!

これまでYCAMで行ってきた地域と結びついた事業を引き継ぎ、地元（ローカル）に存在する多様な経験、文脈、営みなど、関連するいくつもの渦巻きに創造性を発見することで、アートやテクノロジーの視点から世界（グローバル）と結びつけて、より大きなうねりに変えていこう、というコンセプト。多彩な事業がみなさんを待っています！

20th ANNIVERSARY

開館20周年記念事業テーマ
「Axis of Experience —創造の渦巻き」



許家維＋張碩尹＋鄭先喻
浪のしたにも都のさざらふぞ

砂糖を通して見る日本と台湾の近代の記憶

台湾を拠点に活躍する許家維（シュウ・ジャウェイ）、張碩尹（チャン・ティントン）、鄭先喻（チェン・シェンユウ）の新作を発表する展覧会。

日本統治時代の台湾における製糖産業を起点に、日本と台湾の関係や東アジアにおける近代の記憶を辿る作品を共同で制作。台湾編と日本編の二部作で構成され、本展で世界初公開となる日本編は、かつて国際貿易として繁栄した北九州・門司港を主な舞台に、人形浄瑠璃とVRアニメーションを組み合わせ、映像とライブパフォーマンスからなる作品。

【開催日時】2023年6月3日（土）〜9月3日（日）
【イベント休止日】火曜（火曜が祝日の場合は翌日）

スペキュラティブ・ライブラリー

アートセンターの有用性を探る

アートセンターの社会的な役割を再考するためのプラットフォームとしての展覧会。

展覧会場は図書館を模した設えで、社会変革のためのツールとしての芸術表現とメディアテクノロジーが持つ可能性に焦点を当てたさまざまなアイデアを集積。来場者はこうしたアイデアを通じて、アートの利用価値について考え、推測し、実験を行う。会期中には、ワークショップなどのイベントも多数開催。

【開催日時】2023年10月28日（土）〜2024年1月28日（日）
【イベント休止日】火曜（火曜が祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日〜1月3日）

Afternote 山口市 映画館の歴史

山口市内の映画館の歴史を辿る

山口市における映画館の歴史を、市民の記憶と残された資料などの記録を通じて辿る展覧会。

終戦直後から1950年代にかけて、山口市内に存在した10館以上もの映画館の歴史、そして映画館とともに消えてしまったもの、現在に受け継がれているものを再確認するほか、アーティストの志村信裕による映画館にまつわる市民の記憶を紐解くドキュメンタリー映像のほか、当時の映画館に関する資料や、貴重な写真や映像を展示。会期中には、山口ゆかりの映画の特集上映や、映画の歴史を楽しむワークショップなども開催。

【開催日時】
2023年11月25日（土）〜2024年3月17日（日）
【イベント休止日】
火曜（火曜が祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日〜1月3日）

湯田温泉の「実は○○なお話。」

其の1 白狐が温泉を発見!?

湯田温泉は、白ギツネが浸かってケガを癒していたことから発見されたと伝えられます。この「白狐伝説」にちなみ、湯田温泉のまちの至るところに、いろんなキツネのモニュメントが設置されています。中でも湯田温泉駅前に立つ高さ8mの真っ白なキツネの像は見もの。「ゆう太」の愛称で親しまれています。

其の2 「錦川通り」には本当に川が流れていた!

知っちょる?

湯田温泉のメイン通りから一本北側にある「錦川通り」。現在は通りのどこにも川は見当たりませんが、かつては「錦川」という川が実際に流れていました。錦川は一年に何度も氾濫を起こし、その度に住民や宿泊客を困らせていました。そこで実施されたのが、地下に水路を設ける暗渠工事でした。工事は昭和44(1969)年に完了し、人々は氾濫に困ることはなくなりましたが、いまだに錦川の流れる風景を懐かしむ人が多くいます。

【右】かつて湯田温泉街を流れていた錦川
湯田温泉街(絵葉書)(提供:山口市歴史民俗資料館)
【左】現在の様子

一年に何度も起きていた錦川の氾濫
(提供:湯田温泉旅館協同組合)

其の3 最盛期には140人もの芸妓さんがいた!

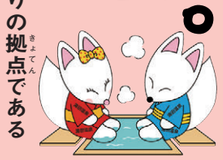
昭和38(1963)年、最盛期には140人の芸妓※さんが湯田温泉を賑やかしてくれていたそう。しかし、慰安旅行ブームが消え去ると、昭和57(1982)年に湯田検番※は解散。その後、30人で自主営業を続けていましたが巻き返すことができず、平成7(1995)年に廃業となりました。最後に残った芸妓さんはわずか6人だったそうです。

※「芸妓」…宴席で歌や踊りを披露し、客をもてなす女性
※「検番」…芸妓さんの取りまとめなどをする事務所

教えてくれたのはこのお方

西村正伸さん

明治36(1906)年創業の老舗旅館「湯田温泉西村屋」(2017年に惜しまれつつ閉館)の元社長。山口市湯田温泉生まれ、湯田温泉育ち。



【湯田温泉のマスコット】
ゆう子ちゃん　ゆう太くん
ⓒyuda spa

着物姿の芸妓さんがたくさんいたよ!

(提供:山口市歴史民俗資料館)

(提供:湯田温泉旅館協同組合)

其の4 鉄道が走っていた!

明治41(1908)年10月から大正2(1913)年2月までの4年あまり、湯田温泉には鉄道が走っていました。幅の狭い線路に小型機関車を走らせる軽便鉄道で、湯田駅は現在の松田屋ホテルの辺りにありました。

▼詳細はP2~5にて

湯田温泉DATA

1日に2,000トン! 豊富な湯量を誇る天然温泉

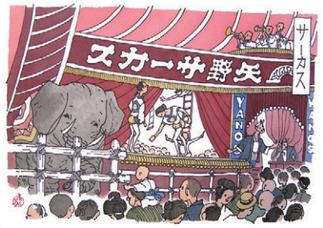
湯田温泉の湯の一番の特徴はなんと言ってもその豊富な湯量。1日に湧き出る天然温泉量は2,000トンと言われています。無色透明でアルカリ性が高く、肌によくなじむやわらかい泉質で、「美肌の湯」としても人気です。

【泉質】アルカリ性単純温泉、無色透明
【泉温】7つの源泉の最高温度は72度
【効能】神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、ぢ疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進など

其の5 サーカス団のゾウが川に落っこちた!

明治に始まったといわれる日本のサーカス。大正時代には山口でも公演されるようになり、民衆を楽しませていたようで、その様子が山口の昭和の風景を描き続けた水彩画家・徳見七郎氏の作品にも残っています。ちなみに湯田温泉では現在の中央公園のある場所が会場となっていたそうで、サーカスにまつわる逸話もあります。それは、サーカス団のゾウが錦川に落っこちたというハプニング。大正5・6(1916・1917)年の頃の出来事といい、湯田温泉のまちが大騒動になったと面白おかしく語り継がれているようです。

ゾウが転落したと伝わる橋
(提供:湯田温泉旅館協同組合)

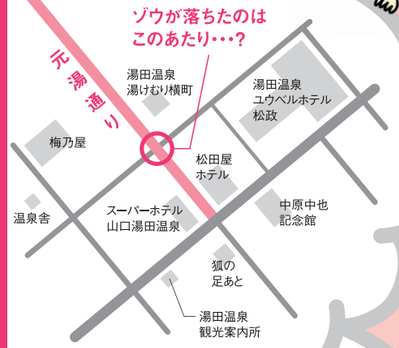


徳見七郎氏水彩画(提供:山口市歴史民俗資料館)

きっとゾウさんもびっくりしたはず!

湯田温泉が湧き出る様子が見学できる温泉舎(ゆのや)

湯田温泉街には足湯や手湯、飲泉場が点在!



其の6 多い時には両側に20数軒の旅館が並んでいた!

湯田温泉の元湯通りには、かつて両側に20数軒の旅館が並び、湯田温泉の中で最も賑わっていました。そしてその奥には、昭和33(1958)年に法律が施行されるまで、色町(芸者屋)があったそうです。

かつての元湯通り(提供:湯田温泉旅館協同組合)

現在の元湯通り

すっかり違う風景に!
今は飲食店や駐車場があるよ

父から私、私から次世代へ伝えたい「実は○○なお話」。

父から昔の湯田温泉についてよく話を聞いたものです。特に印象的だったのは、サーカスのゾウが川に落っこちた話。父はまだ小学生だったそうです。もう一つは錦川の暗渠工事の話です。暗渠工事で人々は安全・安心な暮らしを手に入れましたが、それと同時に湯田温泉街の風情ある景色を失ってしまいました。実は、その景色を取り戻そうと、みんなで色々話し合ったこともありました。まだ私が若かった頃のお話です。結局その夢は叶いませんでしたが…。湯田温泉は時代とともに変化し、老舗と呼ばれる旅館の多くは姿を消しました。水野旅館、湯別当野原、西村屋…、山口市にお住まいのご年配の方々はまだ覚えていらっしゃるかと思います。湯田温泉のまちを歩く際、ぜひ「実は○○なお話」を思い出してください。湯田温泉がもっと楽しめるはずです!

(提供:湯田温泉旅館協同組合)

2025年、湯田温泉に観光地域づくりの拠点が誕生!!

山口市は、2025年のオープンに向け、「あそびば、まなびば、たまりば」を活用コンセプトにした「(仮称)湯田温泉パーク」の整備を進めています。あらゆる世代の市民や観光客が自由に利用でき、心身の増進を図れる場とするこの施設には、全天候型の大屋根広場をはじめとする「交流機能」、浴室や貸切風呂を有する「温浴・健康機能」、飲食機能の3つの機能ほか、芝生広場や屋外テラスなどを備え、湯田温泉のさらなる活性化を目指します。現在、オープンに向けて、湯田温泉ではさまざまな取り組みが行われており、今後はプレイベントの実施なども予定されています。これからの湯田温泉にぜひご期待ください!

完成予想図

「(仮称)湯田温泉パーク」の活用方法を考えるミーティングの様子

祝開館5周年！

山口の幕末が学べる 十朋亭維新館が 2023年9月に開館5周年!

明治維新の扉を開いた山口の歴史にふれる幕末歴史ミュージアム「十朋亭維新館」が、2023年9月に開館5周年を迎えます。

「十朋亭維新館」は、幕末に長州藩士の宿所となった史跡「十朋亭」や、吉田松陰の兄・杉民治が私塾を開いたとされる「杉私塾」、萬代家の主屋、展示室とガイダンスゾーンを有する本館で構成される施設。本館展示室では、萬代家から寄贈された資料や、プロジェクションマッピングによる映像等で、山口の幕末・明治維新を楽しく学ぶこともできます。

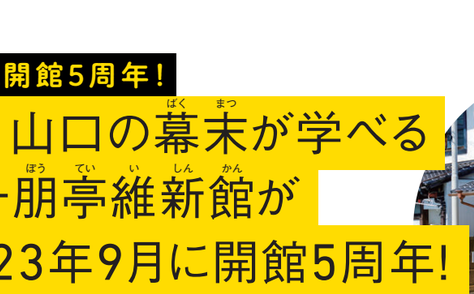
今年は開館5周年を祝した記念展および記念企画も開催。この機会にぜひ訪れ、山口の幕末に触れてみてください。

［企画展示］

■十朋亭維新館開館5周年記念展
木戸孝允生誕190年
大道行くべし～桂小五郎から木戸孝允へ～
（2023年9月13日～12月25日）

■コレクションが語る
萬代家と山口の歴史
（2023年12月27日～2024年3月31日）

［お問い合わせ先］
十朋亭維新館
☎083-902-1688
https://jippotei-ishinkan.jp



国指定重要文化財へ！

常栄寺所有の絵画が 国の重要文化財に 指定へ

2022年11月18日に開催された国の文化審議会において、山口市の常栄寺が所有する2つの絵画を国の重要文化財（絵画）に指定するよう文部科学大臣に答申されました。指定された場合、山口市の国指定重要文化財（絵画）は計8件となります。

［お問い合わせ先］
山口市教育委員会文化財保護課
☎083-920-4111

絹本著色雪舟等楊像〈雲谷等益筆〉

室町時代の画僧・雪舟の肖像画で、江戸時代初期の萩藩絵師・雲谷等益（1591～1644）の代表作として知られる。使用印から、等益晩年の作とみられ、等益が次男・等爾（1615～1671）に付与し、等益没後に等爾が大徳寺185世・玉舟宗璠（1600～1668）の賛を得た可能性が指摘される。雪舟末流として江戸時代を通じ独特の存在感を示し続けた雲谷派にとって、画祖・雪舟の肖像画には特別な意味があったはずで、本作はその一端を示す好資料としても高く評価される。（江戸時代・17世紀）

※文化庁資料より引用

絹本著色惟松円融像〈雲谷等顔筆〉

常栄寺3世・惟松円融（?~1614）の肖像画で、その晩年に弟子の法雲恵藤に与えられたもの。左下の印と様式から、毛利輝元に仕えた雲谷派の祖・雲谷等顔（1547~1618）の作であることも判明する。堂々とした形態把握と気迫を感じさせるやや陰鬱な表情に、きらびやかな彩色とがあいまって独特な存在感を示す優品で、雪舟風の重厚な墨画で著名な等顔が、着色画においても本格的な技術と個性的な作風を持っていたことを示す代表作として高く評価される。（桃山時代・17世紀）

※文化庁資料より引用

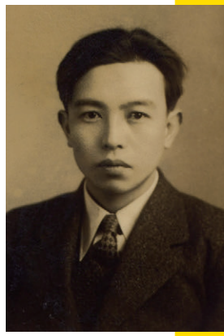
Sight Yamaguchi Vol. 15 2023

YAMAGUCHI CITY TIMES 2023 —— 2024

山口市の「旬」をお届け！

祝開館30周年

2024年2月、 中原中也記念館が 開館30周年を迎えます。



中原中也29歳の頃

建築の世界でも一目置かれる記念館

2024年2月、山口市湯田温泉にある「中原中也記念館」が開館30周年を迎えます。中也の生家跡地に建てられたこの記念館は、「詩人のための建築」を目指して設計され、中也が被っていた帽子をイメージした「中也記念室」などがあり、1998年に「公共建築百選」に選出、2022年には日本建築家協会「JIA25年賞」（25年以上の長きにわたり建築の存在価値を発揮し美しく維持され地域社会に貢献した建築）を受賞しました。

中也の世界に触れられる常設展示&企画展

中原中也記念館では、中也の詩業や生涯を辿ることができる常設展示のほか、何度訪れても新たな中也の世界に触れることができるよう、年数回の展示替えをしています。

【2023年4月以降の展示予定】

■テーマ展示「詩集『山羊の歌』」
（～2024年2月12日）

■企画展Ⅰ「中原中也と関東大震災」
（～2023年7月23日）

■特別企画展「草野心平と中原中也」
（2023年7月27日～10月1日）

■企画展Ⅱ「中也と短歌」
（2023年10月4日～2024年4月14日）

中也ファンが集う多彩なイベントも魅力

展示以外にも、年間をとおして各種イベントを実施しています。中でも、中也の生誕日4月29日に開催される「空の下の朗読会」は、詩の朗読を好んだ中也にならい、一般の方々に自作や愛読の詩を朗読いただく生誕祭で、全国の中也ファンに知られています。また、オンライン・イベントとして、Twitterで動画投稿する「中也web朗読会」も好評です。ほか、中也の命日10月22日の前後には、墓前祭を含む追悼イベントを開催しています。毎月第4金曜日に開催する「中原中也を読む会」は、気軽におしゃべりしながら、テーマに沿った中也の詩などを学芸員とともに読み込んでいく会で、その実施回数は220回を超えています。

中也のふるさと山口市の子どもたちのために

中原中也記念館では、若い世代に「詩」の魅力、中也の詩の世界観をつなぐため、2015年度から18歳以下の入館料を無料にしています。また、中也のふるさと山口市の小・中学生が「詩」に触れ、「中原中也」を知る機会をつくるため、詩のコンクールを2016年度に創設。第7回までの応募総数は約1,300篇にもなりました。

開館30周年記念事業として、中也の詩を教材等で活用できるよう、デジタル版の中学生向け副読本「中也読本」を制作する予定です。

多彩なオリジナルグッズ

記念館やオンラインショップで各種グッズを販売しており、毎年、新作のオリジナルグッズも展開。来館記念やお土産、中也ファン必須のアイテムとして多くの方から愛されています。また、LINEクリエーターズスタンプである24種類の「中也くんスタンプ」も販売中です。

湯田温泉にある酒店や飲食店などでは、中也をモチーフにしたビールや日本酒の販売、カフェメニューなどがあり、散策しながら記念館の余韻に浸ることができます。開館30周年を迎える中原中也記念館と中也が育った湯田温泉のまちなみを堪能しに、足を運んでみてはいかがでしょう。

［お問い合わせ先］
中原中也記念館
☎083-932-6430
https://chuyakan.jp/
関連ページ▶P12.17

PLAYER DIRECTORY 2023

2023シーズン 選手名鑑

※2023年3月1日現在の登録選手

GK（ゴールキーパー） MF（ミッドフィルダー）
DF（ディフェンダー） FW（フォワード）

2023 スローガン

RENOFA 2023 共鳴 KEEP ON CHALLENGING

1 GK
チェ ヒョンチャン

17 GK
吉満 大介（よしみつ だいすけ）

21 GK
関 憲太郎（せき けんたろう）

31 GK
寺門 陸（てらかど りく）

2 DF
高橋 秀典（たかはし ひでのり）

3 DF
ヘナン

5 DF
松本 大輔（まつもと だいすけ）

14 DF
沼田 圭悟（ぬまた けいご）

15 DF
前 貴之（まえ たかゆき）

22 DF
生駒 仁（いこま じん）

41 DF
国本 玲央（くにもと れお）

47 DF
上本 銀太（うえもと ぎんた）

4 MF
神垣 陸（かみがき りく）

6 MF
矢島 慎也（やじま しんや）

7 MF
石川 啓人（いしかわ ひろと）

8 MF
佐藤 謙介（さとう けんすけ）

10 MF
池上 丈二（いけがみ じょうじ）

11 MF
ご当地シャレン選手
田中 稔也（たなか としや）

16 MF
吉岡 雅和（よしおか まさかず）

19 MF
松橋 優安（まつはし ゆあん）

28 MF
小林 成豪（こばやし せいごう）

33 MF
山瀬 功治（やませ こうじ）

9 FW
皆川 佑介（みながわ ゆうすけ）

13 FW
大槻 周平（おおつき しゅうへい）

18 FW
ご当地シャレン選手
高木 大輔（たかぎ だいすけ）

20 FW
河野 孝汰（かわの こうた）

24 FW
梅木 翼（うめき つばさ）

26 FW
野寄 和哉（のよりかずや）

32 FW
五十嵐 太陽（いがらし たいよう）

【ご当地シャレン選手】 レノファ山口FCの選手が担当制で県・市町ごとのPRや応援などの社会連携（シャレン）活動を行います。

スタジアム〈ホームゲーム会場〉 維新みらいふスタジアムのご案内

JR山口線で
【新山口駅】—JR山口線 約13分・210円—【大歳駅】—徒歩 約1km・約12分—【維新公園】

バスで
【新山口駅】—防長バス／約20分・470円—【維新公園】
【湯田温泉】—防長バス／約5分・200円—【維新公園】

タクシーで
【新山口駅】—約20分・3,000円程度—【維新公園】
【湯田温泉】—約6分・1,000円程度—【維新公園】

車で
【湯田温泉スマートICから】—約4km—【維新公園】
【中国自動車道小郡ICから】—約4km—【維新公園】
【中国自動車道山口ICから】—約12km—【維新公園】
【新山口駅から】—約9km—【維新公園】

駐車場には限りがあります。できるだけ、公共の交通機関をご利用ください。

山口市は、レノファ山口FCのホームタウン！

山口市では、スポーツを通じたまちづくりを進めています。
本市をホームタウンとする山口県初のプロサッカークラブ
「レノファ山口FC」を応援してください。

レノファ

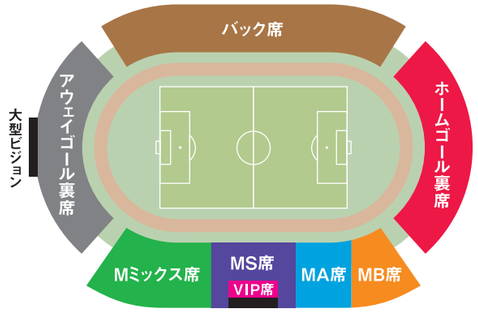
2023明治安田生命J2リーグ試合日程表

山口市でのホームゲーム（維新みらいふスタジアム開催日）

節	開催日	KICK OFF	対戦相手
第 1 節	2月18日（土）	14:00	大宮アルディージャ
第 2 節	2月26日（日）	13:15	ジュビロ磐田
第 4 節	3月11日（土）	14:00	ロアッソ熊本
第 6 節	3月26日（日）	14:00	藤枝MYFC
第 8 節	4月 8日（土）	14:00	栃木SC
第10節	4月16日（日）	14:00	清水エスパルス
第13節	5月 3日（水・祝）	14:00	ジェフユナイテッド千葉
第15節	5月13日（土）	13:15	徳島ヴォルティス
第17節	5月21日（日）	14:00	東京ヴェルディ
第19節	6月 3日（土）	14:00	V・ファーレン長崎
第21節	6月18日（日）	14:00	ベガルタ仙台
第24節	7月 5日（水）	19:00	モンテディオ山形
第26節	7月15日（土）	19:00	いわきFC
第27節	7月22日（土）	19:00	ブラウブリッツ秋田
第29節	8月 6日（日）	19:00	大分トリニータ
第32節	8月26日（土）	19:00	ヴァンフォーレ甲府
第33節	9月 3日（日）	未定	水戸ホーリーホック
第36節	9月23日（土・祝）	未定	ザスパクサツ群馬
第39節	10月22日（日）	未定	ファジアーノ岡山
第41節	11月 5日（日）	未定	FC町田ゼルビア

※2023年3月1日現在、山口市で開催が決定している試合のみ掲載。
最新情報は、レノファ山口FCのホームページでご確認ください。

維新みらいふスタジアム



メインスタンド側（正面玄関側）

価格表（円・税込）

座席種別		前売	当日
VIP席（指定）		ー	ー
MS席（指定）		3,600	4,100
MA席（指定）	一般	3,100	3,600
	学生	2,000	2,500
MB席（自由）	一般	2,500	3,000
	学生	1,500	2,000
Mミックス席（自由）	一般	2,200	2,700
	学生	1,200	1,700
バック席（自由）	一般	2,000	2,500
	学生	1,000	1,500
ホームゴール裏席（自由）	一般	1,600	2,100
	学生	800	1,300
アウェイゴール裏席（自由）	一般	1,600	2,100
	学生	800	1,300

POST CARD

彩都山口
URL https://sight-yamaguchi.jp

このハガキで「彩都山口」プレゼントクイズにご応募いただけます。

郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、右上のクイズの答え、アンケートの回答をご記入の上、お送りください。正解者の中から抽選で10名様に**山口市の特産品の詰め合わせ**をプレゼントします。当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

クイズの答え [　　]

「彩都山口」の感想をお寄せください。

皆様のご意見を今後の誌面づくりの参考にさせていただきます。

Q1 「彩都山口」をどこで入手されましたか？

1. 郵送で　2. 市役所や公民館等の公共施設で　3. 駅や観光案内所で
4. 道の駅や特産品販売所などで　5. ホテルや旅館等の宿泊施設で
6. 美容院や飲食店などのお店で　7. その他[具体的に:　　]

Q2 どの記事が面白かったですか？

1. 特集1「JR山口線とSLやまぐち号の軌跡」(P1〜12)
2. 特集2「アートのまち、山口市。」(P13〜21)
3. 特集3「湯田温泉の「実は○○」なお話。」(P22・23)
4. YAMAGUCHI CITY TIMES(P24・25)
5. その他[具体的に:　　]

Q3 山口市のどんなところに興味がありますか？

1. 歴史　2. 自然　3. 芸術・文化　4. 温泉　5. グルメ
6. その他[具体的に:　　]

Q4 山口市の中でどこか訪ねてみたい所がありますか？

訪ねてみたい理由があれば、それも教えてください。
場所[　　]
理由[　　]

Q5 今後、どんなテーマの記事を読んでみたいですか？

プレゼントクイズ

Present Quiz

クイズ正解者の中から抽選で10名様に、「山口市の特産品の詰め合わせ」をプレゼントします！ふるってご応募ください。

Q JR山口線は今年(2023年)で全線開通何周年？

1 30周年　2 100周年　3 500周年

【応募方法】

- 郵送：左の応募ハガキを切り離し、必要事項をご記入の上、63円切手を貼り付けてお送りください。
- 二次元コード：スマートフォンで右の二次元コードを読み込み、専用フォームに必要事項をご記入ください。

【応募締切】第1次／2023年9月30日(土)　第2次／2024年1月31日(水)　当日消印有効

[個人情報利用の目的] ご応募いただいた際の個人情報は、誌面づくりの参考とプレゼント賞品の発送のみに使用いたします。

山口市LINE公式アカウントあります！

山口市

[アカウント名] 山口市
[LINE ID] @yamaguchi-city

登録はコチラ

右の二次元コードを読み取るか、LINEのホーム画面から「山口市」を検索して友だち登録をしてください。

山口市への「ふるさと納税」のお申し込みも、Web上で簡単に手続きできます！

山口市がもっと好きになる情報サイト
https://sight-yamaguchi.jp/

彩都山口 Sight Yamaguchi 2023 Vol.15

発行

2023年4月
山口市総合政策部企画経営課
〒753-8650 山口市亀山町2-1
TEL.083-934-2746
https://www.city.yamaguchi.lg.jp/

制作

統括　株式会社コア
企画・編集　藤井香織
取材・執筆　藤井香織
デザイン　柴原 朗(クワハラデザイン)
マンガ・イラスト　やまでらわかな

取材協力(順不同)

山口市小郡文化資料館
山口市歴史民俗資料館
JR西日本山口地域共生室
寺田 勉
古谷眞之助(やまぐち萩往還語り部の会)
防府市文化振興課
船木鉄道株式会社
長門ポッポを守る会
下松市地域交流課
船方農場
湯田温泉観光回遊拠点施設 狐の足あと
道の駅 仁保の郷
徳佐りんご組合
津和野町商工観光課
太鼓谷稲成神社
杉並アニメーションミュージアム
メモリーバンク株式会社
南 正時
中原中也記念館
吉永昂弘(山口線SL運行対策協議会)
山口情報芸術センター(YCAM)
エムデ ミハエル
常栄寺
山口県庁管財課
山口カトリック協会
クリエイティブ・スペース赤れんが
山口県立美術館
湯田温泉旅館協同組合
西村正伸

参考文献

「駅長さんの書いた駅名ものがたり 広島鉄道管理局」(東洋図書出版)
「週刊歴史でめぐる鉄道全路線 国鉄・JR 山口線 美祢線 宇部線 小野田線 岩徳線」(朝日新聞出版)
「鉄道廃線跡を歩く X」(JTBキャンブックス)
「日本鉄道旅行地図帳11号」(新潮社)
「山口市史 史料編 近代」(山口市)
「山口県史 史料編 近代4」(山口県)
「山口県政史 上」(山口県)
「山口市史 第1 通史篇」(山口市)
「市報やまぐち 1997年 No.1209」(山口市)
「日本全国諸会社役員録 明治41年」(商業興信所 ※国立国会図書館デジタルコレクション)
「鉄道院年報 明治41・42・43年度」(鉄道院 ※国立国会図書館デジタルコレクション)

ⓒ本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。
※本誌掲載の情報は2023年3月31日現在のものです。予告なく変更になる場合もありますのでご了承ください。

「ふるさと納税」で山口市を応援してください！

ふるさと納税

令和3年度の寄附額

4億4,432万6,982円(1万9,843件)

全国各地の方から多くのご寄附をいただき、誠にありがとうございました。
みなさまからお寄せいただいた貴重な寄附金は、以下の6つの中から寄附をされた方が選ばれた使い道に活用しています。

令和3年度ふるさとやまぐち寄附金の使い道

1 山口の個性を高め暮らしを楽しむ「文化・スポーツ・観光なら山口」のまちづくり

3,288件　7,729万2,000円

文化・芸術・スポーツなど本市の地域資源を活用し、市民の豊かな感性や創造性を育む事業に役立てました。

◀山口ゆめ回廊博覧会の開催

2 産業活力・地域雇用を創出する「教育・子育てなら山口」のまちづくり

1,222件　2,992万7,000円

企業誘致の強化、起業創業支援、中小企業への経営改善や事業承継支援など、地場産業の振興をはじめとした地域雇用創出の強化等に活用しました。

◀山口市産業交流拠点施設のグランドオープン

3 将来を担う子どもたちを育む「教育・子育てなら山口」のまちづくり

6,993件　1億5,229万4,000円

未来を担う子どもたちが健やかに育つよう、子育て・教育環境の整備等に活用しました。

◀待機児童ゼロに向けた取り組み

4 快適な住環境を整備する「安全安心」のまちづくり

1,024件　1,841万1,000円

自然災害に備えた施設の計画的な整備や改修を進めると同時に、日常生活の安心を高める救急体制の強化、公共空間のバリアフリー化など、安全安心の住環境に向けた取組に活用しました。

◀浸水対策として雨水貯留施設等を整備

5 生涯にわたって元気に暮らす「健康長寿」のまちづくり

1,134件　2,384万6,000円

生涯にわたり元気でいきいきと暮らすことができるよう、高齢社会に対応した福祉サービスの充実や地域における高齢者の支え合い体制の整備等に活用しました。

◀地域医療体制の充実

6 まちづくり全体への支援

6,182件　1億4,255万6,982円

1〜5のまちづくりの他、山口市に「住んでみたい、住み続けたい」と思っていただけるような事業に活用しました。

◀総合支所及び地域交流センターの整備

「ふるさとやまぐち寄附金」にご協力いただいた方には、お礼の品をお送りしています。

山口市自慢の農林水産品、銘菓、工芸品など300点以上の中からお好きなものをお選びいただけます。

湯田温泉の泉源からくみ上げた100%のピュアミストもあります！

阿知須牛

あいおえび

日本酒「山頭火」

湯田温泉

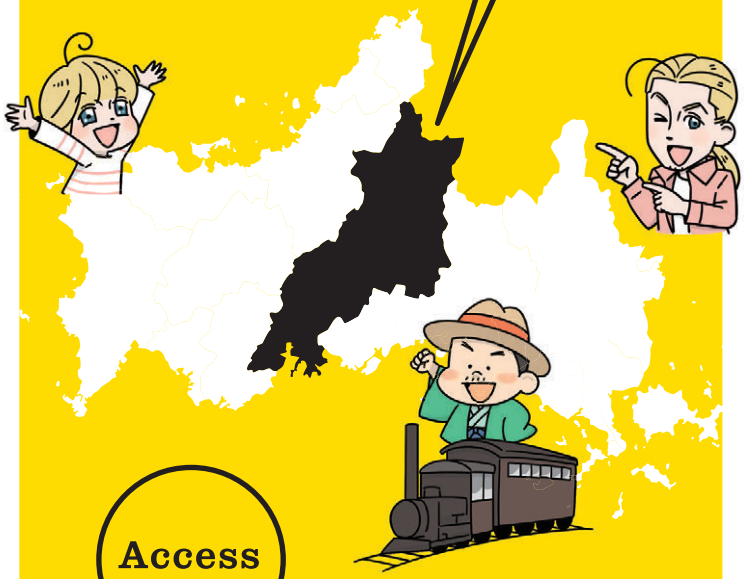
お礼の品や申込方法など「ふるさとやまぐち寄附金」について、詳しくは「彩都山口」のホームページでご覧いただけます。

https://sight-yamaguchi.jp/furusatonozei/

ふるさとやまぐち寄附金

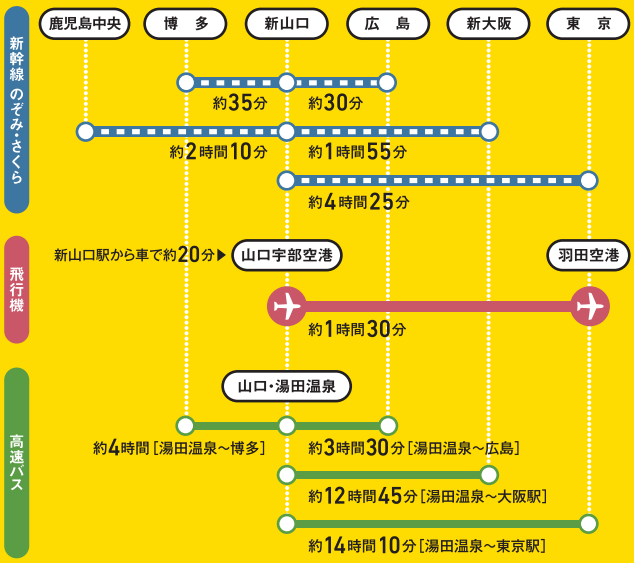
お問い合わせ先
山口市商工振興部ふるさと産業振興課
☎083-934-2941　fax 083-934-2650
E-mail info@sight-yamaguchi.jp

Yamaguchi City



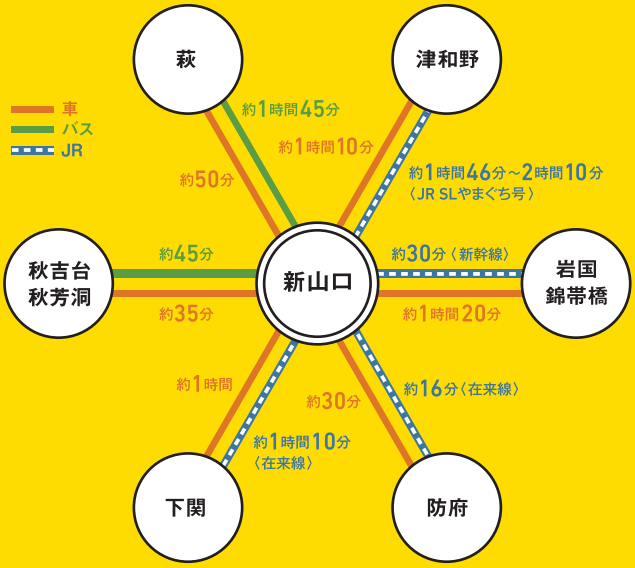
Access

県外からのアクセス



※2023年3月現在の情報です。所要時間は目安です。

近隣観光地へのアクセス



POST CARD

切手を貼って
ご投函ください

7 5 3 - 8 7 9 0

山口市亀山町2-1

総合政策部 企画経営課

「彩都山口 Vol.15」プレゼント係 行

必要事項をご記入ください

ふりがな		年齢	歳
お名前［必須］		性別	男 ・ 女
ご住所［必須］			
TEL［必須］	– –	FAX	– –
ご職業			

【応募締切】第1次／2023年9月30日（土）
第2次／2024年1月31日（水）
― 当日消印有効